

VI 臨床研修概要

1 経緯

病院の沿革・特徴

昭和2年、伝染病組合病院が川崎市立病院に改称、昭和11年、大規模改築、昭和20年6月1日に総合病院となり、その後建物、設備、診療科の増設を逐次行い、市民の医療の中枢を担う病院に発展してきました。

昭和40年、救急指定病院となり、昭和42年には研修医制度が発足しました。それ以降、各学会の指定医の研修施設に指定され、昭和63年には、外国人医師等を対象とした臨床修練指定病院となりました。

また、平成10年4月から総合診療科を設置したことに伴い、新たに後期臨床研修も実施しています。

なお、平成7年から全面改築を進めてきましたが、平成10年11月病棟・中央診療棟が完成し、そして平成12年4月、新外来棟がオープンしたことにより、当院を取り巻く医療環境は、大幅に改善されたばかりでなく、導入された総合医療情報システムや搬送システムが完全に稼動し、機能面でも一段とアップしました。

初期臨床研修

当院の臨床研修制度は、昭和42年4月に発足し、既に40年が経過しています。最初の10年間は研修期間3年のレジデント制度として行われ、昭和52年からは2年間の臨床研修制度となりました。

また、当初の12年間は学制と同じく4月に始まり、3月に終わる制度でありましたが、研修医内定者のうち医師国家試験に不合格となるものがあり、厚生省の指導や欠員を配慮して昭和54年からは6月開始・5月修了に改められました。そして、平成5年に至り医師国家試験の期日が3月に変更されたことに伴い、5月開始・4月修了という新たな制度に生まれ変わりました。

昭和50年度までは単一専門科か専門科と関連する他の1から2科を研修するのみでありましたが、昭和51年度からは専門科に重点を置きながらも、広く各科を研修するローテイト方式を採用してきました。

これは平成16年度から実施された卒後臨床研修制度を先取りしていたものであったといえます。

平成16年5月からは新たな卒後臨床研修制度義務化に伴って、単独型臨床研修病院として初期研修医各学年10名を受け入れ、更に川崎市立井田病院に対する協力型病院として各々2名（当院ローテイトは卒後2年目）を指導しています。

平成22年12月1日に卒後臨床研修評価機構の認定を受けました。

新制度実施後、多数の医学生から応募があるのは、当院がこれまで取り組んできた臨床研修制度が高く評価されたものと自負しつつも更に医療安全管理・倫理面も含めた教育内容を拡充し、優れた臨床医の育成を図りたいと考えています。

(1) 初期臨床研修医年度別 採用者数

年 度	応 募 者	採 用	修 了	備 考
昭和 44	5	3		3年制→2年制度へ移行
45	14	7	3	
46	19	4	2	
47	18	6	8	
48	17	8	4	
49	24	6	3	
50	39	10	7	
51	37	5	5	
52	26	8	5	
53	23	10	11	
54	42	10	11	
55	17	10		
56	12	3	9	
57	9	5	8	
58	4	3	2	
59	11	5	5	
60	11	1	11	
61	9	5	1	
62	6	2		
63	8	2	4	
平成 元	12	8	2	
2	9	6	1	
3	9	7	6	
4	13	10	6	
5	12	7	5	
6	10	9	8	
7	11	11	6	
8	21	10	7	
9	13	6	8	
10	12	9	10	
11	16	9	4	
12	16	11	5	
13	14	10	8	
14	11	10	8	
15	8	7	7	
16	84	10	6	
17	126	9	4	
18	83	9	9	
19	103	10	9	
20	83	9	9	
21	62	10	9	
22	67	10	10	
23	79	10	10	
24	96	10	10	
計	1,321名	330名	266名	

(2) 専修医年度別 採用者数

年 度	応募者数	採 用	備 考
12	12	9	
13	13	12	
14	8	8	
15	10	10	
16	13	10	
17	11	11	
18	13	12	
19	27	25	
20	44	36	
21	38	34	
22	32	29	
23	34	27	
24	38	34	
計	293名	257名	

(3) 初期臨床研修医出身校別採用者数

国・公立大学

私立大学

(平成24年4月1日現在)

出身校	年度							計	出身校	年度							計
	S.42~ H.19	20	21	22	23	24	S.42~ H.19			20	21	22	23	24			
北海道大	4						4	岩手医大	2						2		
札幌医科大	1						1	自治医大	7						7		
旭川医科大					1		1	埼玉医大	3						3		
弘前大	5						5	日本大	4						4		
秋田大	7						7	日本医大	2					2	4		
山形大	2						2	順天大	2				1		3		
山形大	2						2	慶應義塾大	61	3	3	3	5	2	77		
福島県医大	1					2	4	東京女子医大	8					1	9		
群馬大	2			1			3	慈恵医科大	7			1		1	9		
筑波大	1		1				2	昭和医大	22	2	1	2	1		28		
千葉大	10	2	1				14	東邦大	5	1				1	7		
東京大	1						1	杏林大	13	1	1				15		
東京医科歯科大	4						4	聖マリアンナ大	7						7		
横浜市立大	3						3	北里大	14						14		
山梨大	1						1	東海大	5			1			6		
新潟大	3						3	帝京大	11		1	1			13		
富山大	2						2	藤田保健大	1						1		
福井大	1		1				2	愛知医科大	9				1		10		
浜松医科大	4						4	関西医科大	2						2		
岐阜大	2						2	大阪医科大	3						3		
名古屋大	2						2	兵庫医科大	2						2		
名古屋大	3						3	川崎医科大	2						2		
三重大	3						3	産業医科大	1						1		
奈良大	1						1	久留米大	2						2		
京都大	1						1	金沢大	5						5		
神戸大	3						3		2						2		
岡山大	2						2										
島根大				1			1										
山口大	2						2										
徳島大	2						2										
香川大	1						1										
長崎大	3		1				4										
佐賀大	1						1										
熊本大	2						2										
鹿児島大	1						1										
琉球大	2						2										
キングスレッジ					1		1										
計	85	2	4	2	2	3	98	計	202	7	6	8	8	7	238		

(4) 初期臨床別研修修了者（平成23年度生）

修了年月日	氏名	出身校
平成25年3月31日	小松田 明 里	慶應義塾大学
平成25年3月31日	濱 田 祥 子	東京慈恵会医科大学
平成25年3月31日	大 伴 直 央	慶應義塾大学
平成25年3月31日	中 村 研 太	藤田保健衛生大学
平成25年3月31日	植 松 敬 子	旭川医科大学
平成25年3月31日	中 村 暢 宏	順天堂大学
平成25年3月31日	熊 谷 宜 子	慶應義塾大学
平成25年3月31日	宮 内 里 沙	慶應義塾大学
平成25年3月31日	江 原 和 美	キングスカレッジ
平成25年3月31日	森 友季恵	慶應義塾大学

< 2年間研修を受けた専修医 > ・高 橋 貞 佳 ・池 添 亨 ・鮫 島 由 友
 ・福 岡 聖 大 ・黒 田 葵 ・高 井 久仁庸

< 1年間研修を受けた専修医 > ・植 野 華 子 ・北 薊 久 雄 ・川 澄 日出長
 ・伊 藤 玲 奈 ・伊 東 秀 樹 ・渡 瀬 真梨子

(5) 在籍する臨床研修医（平成25年4月1日現在）

2年次生（平成24年度生）		1年次生（平成25年度生）	
氏名	出身校	氏名	出身校
鈴木 詔子	東京女子医科大学	安 東 一 樹	慶 應 義 塾 大 学
山 田 万里恵	慶 應 義 塾 大 学	高 聖 淵	慶 應 義 塾 大 学
河 内 大 輔	千 葉 大 学	郡 山 琴 絵	新 潟 大 学
赤 羽 宏 基	東 北 大 学	白 川 和 宏	慶 應 義 塾 大 学
森 田 覚	日 本 医 科 大 学	竹 原 朋 宏	慶 應 義 塾 大 学
木 村 祐美子	東 京 医 科 大 学	橋 本 麻 実	東 北 大 学
田 中 佑 資	東 北 大 学	花 田 亮 太	昭 和 大 学
倉 持 智 洋	日 本 医 科 大 学	廣 瀬 恵	日 本 医 科 大 学
鎌 田 泰 裕	昭 和 大 学	淵 田 幹 太	慶 應 義 塾 大 学
江 藤 美菜実	慶 應 義 塾 大 学	前 田 裕 斗	東 京 大 学

(6) 在籍する専修医 (平成25年6月1日現在)

4年次生以上			3年次生		
志望科	氏名	出身校	志望科	氏名	出身校
内科	有馬 聖永	千葉大学	内科	本橋 健史	金沢医科大学
内科	吉井 肇	岡山大学	内科	碓井 遼	北里大学
内科	井上 典子	横浜市立大学	内科	久保 敦子	北里大学
内科	安部 涼平	千葉大学	内科	長谷川 司	日本大学
外科	荒井 亮輔	帝京大学	外科	西村 絵美	東邦大学
外科	小野 雄大	北里大学	外科	徳田 敏樹	慶應義塾大学
内科	今村 友美	東邦大学	小児科	江原 和美	キングスカレッジ
内科	武井 裕史	慶應義塾大学	産科	土屋 佳子	香川大学
外科	桑原 強	金沢医科大学	婦人科	齋藤 真理子	信州大学
外科	樋口 格	北里大学	麻酔科	清野 七菜子	新潟大学
外科	井上 和茂	信州大学	麻酔科	堂下 幹司	鶴見大学
外科	佐藤 順一朗	杏林大学	救急科	植松 敬子	旭川医科大学
外科	岡村 亮	帝京大学	救急科	近野 祐介	信州大学
小児科	石川 真由美	香川大学			
小児科	本田 堯	慶應義塾大学			
産科	鈴木 毅	福井大学			
婦人科	大河内 緑	日本大学			
婦人科	宮内 安澄	藤田保健学			
精神科	佐々木 裕人	徳島大学			
精神科	高橋 秀行	秋田大学			
精神科	天貝 久	東邦大学			
精神科	三浦 孝政	群馬大学			
精神科	齋藤 篤之	慶應義塾大学			
麻酔科	若宮 里恵	三重大学			
麻酔科	本田 あやか	慶應義塾大学			
整形外科	金田 和也	慶應義塾大学			
整形外科	梅津 太郎	慶應義塾大学			
耳鼻咽喉科	三浦 康士郎	九州大学			
耳鼻咽喉科	猪野 絢子	福島県立学			
歯科口腔外科	軽部 健史	東北大学			
救急科	塩島 裕樹	山口大学			
救急科	野口 啓	滋賀医科大学			

2 初期臨床研修医プログラム

(1) 名 称

川崎市立川崎病院初期臨床研修プログラム

(2) 目的と特徴

当院の研修医制度は、昭和42年4月に発足し、その後教育指導部を設置して既に40年以上が経ちますが、この間多数の研修修了者を送り出して来ましたが、その後、幾度かの変遷を経て、現在では、毎年4月1日に研修開始して、2年後の3月31日に修了する方式を採っています。

ローテイトに当たっては、研修医と十分話し合いを持ち、それぞれに最も適した個別カリキュラムを組んで、限られた期間に充実した研修成果が上がるよう努めています。

また、各科の基礎的診断治療のための技能の習得のみならず、“病気を診るのではなく、悩める病人を診る”という、診療態度の修得やプライマリ・ケアを重視した研修を行っています。

医学の進歩に伴い医療の専門分化・高度化により各臓器疾患の専門医は増加し、これまで治療困難とされた疾患が克服できるようになりました。それに反して患者を全人的に診療できる医師（General Physician）は少なく、“病気のみを診るのではなく悩める病人を診る”ことのできるGeneral Physicianの養成が社会的に求められています。また、本当の意味での専門医はGeneral Physicianとしての素養を身につけた上で、自分の専門分野を追及していくべきと考えます。

そこで当院では、“臓器別専門医である前に、患者全体を診て適切な診療を行う”を基本方針の基に、臨床医としての基礎的臨床能力を養成することを主たる目標にしました。

(3) 指導者と研修施設

ア 指導者と研修プログラム責任者

教育指導部長 玉井 博 修

イ 研 修 施 設

診療各科及び検査科の施設、研究室、会議室

ウ 指導医リスト [医師免許取得後7年以上] (平成25年6月1日現在)

内 科	野崎 博之	有馬 功一郎	津村 和大	井上 健太郎
	工藤 雄大	岡野 裕	大曾根 康夫	楠 芳恵
	田口 博章	玉井 博修	有泉 健	佐山 宏一
	大森 奈緒	田中 希宇人	末吉 浩一郎	李 慧崇
	高橋 賢至	高木 英恵	坂本 光男	中島 由紀子
	西澤 健也	深江 智明	横須賀 公三	
精神科	齋藤 寿昭	根本 康	芹沢 亜沙子	
小児科	安藏 慎	中尾 歩	松岡 恵	檜林 敦
	小島 拓朗	安藤 枝里子	山口 哲司	
新生児内科	森 和広	福家 智子	梶原 久美子	金 隆根
	住友 典子			
外 科	掛札 敏裕	小柳 和夫	壁島 康郎	星本 相淳
	萬谷 京子	田中 求	市東 昌也	和多田 晋
内視鏡室	相浦 浩一			
救命救急センター	田熊 清継	伊藤 壮一	高橋 俊介	郷内 志朗
	大城 健一	齋藤 豊	竹村 成秀	權森 智

	近藤	英樹	進藤	健	春成	学	荘司	清
	土井	賢治	金尾	邦生				
脳神経外科	竹中	信夫	今西	智之				
脳血管外科	片山	真	植田	良				
内視鏡室	相浦	浩一						
整形外科	堀内	行雄	小柳	貴裕	中道	憲明	原藤	健吾
	金子	康仁	別所	祐貴	堀内	孝一	清水	英徳
	橘田	祐樹						
心臓血管外科	森	厚夫	石田	治				
呼吸器外科	澤藤	誠	江口	圭介				
皮膚科	宮川	俊一	土井	亜希子	栗原	佑一		
泌尿器科	原	智	長谷川	政徳	金子	剛		
産婦人科	林	保良	岩田	壮吉	樋口	隆幸	金	善恵
	藪野	彰	染谷	健一	上野	和典	村越	行高
眼 科	寺内	直毅						
耳鼻咽喉科	相馬	啓子	重富	征爾	前田	俊一		
放射線科	成松	芳明	長谷川	市郎	佐藤	宏朗	山本	あゆみ
	栗林	徹						
形成外科	井上	義治	畑野	麻子				
歯科口腔外科	鬼澤	勝弘	安居	孝純				
麻酔科	増田	純一	森田	慶久	永井	美江	菅	規久子
	増田	祐也	阪本	浩平				
検査科	杉浦	仁	入江	理恵				
リハビリテーション科	中道	憲明	村岡	香織	伊藤	真梨		

エ 専門医（認定医）教育病院等学会の指定状況

外国人医師または歯科医師の臨床修練指定病院	日本眼科学会専門医研修施設
日本内科学会認定医教育病院	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本小児科学会専門医研修施設	日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本外科学会外科専門医制度修練指定施設	日本病理学会専門医研修認定施設
日本脳神経外科学会専門医研修施設	日本消化器外科専門医認定施設
日本整形外科学会専門医研修施設	日本医学放射線学会専門医総合修練機関
日本皮膚科学会専門医研修施設	日本腎臓学会認定医研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設	日本リウマチ学会認定施設
日本周産期・新生児医学会専門医制度指定研修施設	日本循環器学会専門医研修施設
日本産婦人科学会認定医卒後研修指導施設	日本胸部外科学会教育施設協議会施設
	日本アレルギー学会認定施設

日本糖尿病学会認定教育施設	日本 I V R 学会専門医修練認定施設
日本内分泌学会内分泌代謝科専門医認定教育施設	心臓血管外科専門医認定機構認定修練施設基幹施設
日本核医学会専門医教育病院	日本集中治療医学会専門医研修施設
日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設	日本呼吸器学会認定関連施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設	日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本リハビリテーション医学会認定研修施設	日本感染症学会認定研修施設
日本放射線腫瘍学会認定協力施設	日本臨床細胞学会認定施設
日本神経学会教育関連施設	日本精神神経学会精神科専門医研究施設
日本呼吸器内視鏡学会認定施設	呼吸器外科専門医合同委員会認定修練基幹施設
日本救急医学会認定指定施設	日本緩和医療学会認定研修施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設	

オ 指導体制

各科とも原則としてマンツーマン方式を取れ入れています。

(4) プログラム委員会

本院には、研修管理委員会が設置されており、その委員がプログラム委員を兼務します。

(5) プログラム管理体制

ア 研修管理委員会の組織・機能

(7) 委員長：玉井 博修 教育指導部長

(1) 構成：委員は各研修カリキュラムの責任者、院長、事務局長、副院長、庶務課長、研修協力施設の研修実施責任者（指導医等）、外部委員（医師等）

(ウ) 業 務

a 研修プログラムの全体的な調整・管理

（研修プログラム作成方針の決定や、各研修カリキュラム間の相互調整など）

b 研修医の全体的な管理

（研修医の募集、他施設への出向、研修医の処遇、研修医の健康管理）

c 研修医の研修状況の評価

（研修目標の達成状況の評価、臨床研修修了の評価）

d 採用時における研修希望者の評価

e 指導医の評価と記録

f 研修後の進路について、相談等の支援を行う

g 院内カンファレンス、研修資料と教育機材の管理、指導医研修

イ 研修医の勤務規定、顕彰・処罰規定及び採用方法

研修医の勤務規定、顕彰・処罰規定及び採用方法は別途定める要綱によります。研修医は、毎年公募により採用されます。

ウ 研修プログラムの自己評価と改善体制

研修管理委員会では、研修医の研修成果や研修医・指導医の意見を踏まえ、常に研修プログラム自体の評価を行い、修正可能な点は速やかに修正します。また、大きなシステム上の問題は、関係各所と協議の上、適宜改善を行います。

エ 研修医からのフィードバック

研修医は、研修実行委員と定期的に面接を行い、研修プログラムや指導医に対する意見を述べることができます。臨床研修委員会は、できるだけ研修医の要望を実現できるよう配慮します。

オ 研修の継続が困難な研修医に対する処置

身体的・社会的・経済的理由などにより、研修継続が困難な状態に陥った場合は、臨床研修委員会及び研修責任者は、研修医個人の処遇を勘案し、適切な対応を行うものとします。

(6) 卒後臨床研修・ローテイトについて

ア 期間割り研修医予定配置

1年次の最初の月（4月）は、全員が救急科で研修を行います。厚生労働省の定める内科6か月、救急科3か月、地域医療1か月を必修科目として計10か月間研修します。選択必修は5科（外科、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科）の中から2科を選択し、選択科（内科、外科、救急科、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科、整形外科、放射線科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、脳神経外科、心臓血管外科、リハビリテーション科、検査（病理）科、の中から選択）と合わせて計14か月の研修を行います。

選択科目の研修期間は、プログラムの特性を配慮し、最低1か月とします。

選択科目の研修に当たっては、研修医が各研修カリキュラムを選択し、積極的に研修に取り組み、充実した研修ができるように留意します。

(7) 研修医定員及び処遇

研修医定員：1年次10名、2年次10名

募集及び採用方法：公募、小論文、面接及び集団討論にて選考、マッチングに参加

資格：平成25年度日本で医師免許取得見込みの者

処遇：川崎市非常勤嘱託職員
地方公務員法（以下「地公法」という。）第30条及び第32条から第35条を、遵守する義務を負う。

待遇：給与月額 364,100円

健康保険及び公務災害補償あり

レジデントハウス（単身者用）あり

（病院から歩いて10分以内の範囲）

（月額40,200～54,000円程度）

病院個室なし、個人の机及びロッカー有り

定期健康診断年1回

医師賠償責任保険は病院として加入

学会及び研究会への参加は研修に支障のない範囲で可。ただし、公費負担なし

勤務時間：1週5日（月から金まで）

月から金まで：8時30分から17時まで 時間外勤務なし

研修以外の診療活動は認めない（地公法第38条の改正による）

当直は配属科により変わるが、内科の場合に平日当直2日、休日当直1日が目安である。

年次有給休暇等：1年につき10日

夏期休暇5日（7月1日から9月30日までの間）

(8) 研修修了認定基準

臨床研修医に関する要綱中、第10条の修了証書の授与に際しては、次の基準によるものとします。

ア 各研修医は、厚生労働省の指定した初期臨床研修到達目標の自己評価表に基づき、自己採点を行い、研修責任者に提出する。

イ 研修責任者は、研修管理委員会を開催し、ローテイトした科の指導責任者の採点によるレジデント評価表と研修医が採点した自己評価表を併せて審査し、その結果を院長に報告する。

ウ 院長は、報告に基づき研修が修了したと認定された研修医に対して、修了証書を授与する。

VII 業 績 目 録

科 別 業

科目	年度	科 別										
		内 科	精 神 科	小 児 科	外 科	呼 吸 器 外 科	脳 神 経 外 科	整 形 外 科	心 臓 血 管 外 科	皮 膚 科	泌 尿 器 科	産 科 ・ 婦 人 科
学 位 取 得	20						1	1				
	21											
	22											
	23											
	24										1	
賞	20											
	21											
	22											
	23											
	24					1					1	
研 究 助 成 及 び 共 同 研 究	20	5			2							
	21	2			2							
	22	2										
	23	2			1							
	24	1					1					
著 書	20	8			1			2				1
	21	14		2	(1)							
	22	5						2				1
	23	5	3	1				4			1	1
	24	3		2	24			23				
刊 行 論 文	20	5		2	5			9	1	4		1
	21	7			5			16	1	5	6	
	22	10	1		6			19				2
	23	3	1		33	1		24			2	3
	24	3			2	1		16		1	9	3
講 演	20	14		1	5			11				9(3)
	21	16		3	5(2)			10				
	22	31	1	1				7				1
	23	32	2	6	2			3			1	8
	24	10	4	8	2			7				
シ ン ポ ジ ウ ム	20				16			1				
	21				13(1)			1				
	22	1	1			1		2				
	23	2			1							
	24	1										
学 会 発 表	20	33		5	32		4	20		7		3
	21			4	44(17)		4	24	3	7	3	25
	22	38	1	9	40	10	9	38			3	19
	23	36	5	7	11	8	2	33		3	5	14
	24	22	4	4	1	8	8	1	18	3	6	13
マ ス コ ミ 他	20				1			8				
	21	8						4				
	22	7	1					9			1	
	23	13	1	2	9		1				1	
	24	7						15			1	

績 統 計

眼 科	耳 鼻 咽 喉 科	放 射 線 科	麻 酔 科	救 急 科	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科	歯 科 口 腔 外 科	検 査 科	薬 剤 科	看 護 部	地 域 医 療 部	感 染 対 策 室	食 養 科	合 計
1								1					1 2 0 0 2
	1												0 0 1 0 4
		1				1	1						7 4 2 5 3
2		2	1	2	2	1	1				1		21 18(1) 14 26 56
	2	1	4	4	1	1	9	1	5				50 71 62 99 60
	5	4	4	4	2	3	5	2	8				
2	5		3	7	2	1	4	3					
1	2	2	3	5	5	2	12	6					
	4	4	2	5		2		3			1	1	55(3)
	4	5	3	3		2						3	55(2)
	1	4	3	3								2	54
	7	5	3	3		2						2	73
2	4	11	1	1		2		3				5	60
	1	1			1								20
	1			1									15(1)
	1						2				1		9
	1		1	1									6
		2											3
	10	17	10	5	2	3		1	12			1	170
	12	25	11	22	3	4	10	4		1	1	1	241(17)
2	6	13	20	24	3	2	9	3					249
	22	15	18	20	4	1	11	7					222
	17	7	16	24	5	4	12	4				2	202
													9
	1	3					4	2			3		25
		8	1	6							3		36
		8	5	14			4						58
	1	4	1	48			3	3			5	2	90

1 当院における学位取得者

氏名 (所属診療科)	学位取得論文タイトル	掲載学会誌 巻号・年月
長谷川 政徳 (泌尿器科)	Low-dose docetaxel enhances the sensitivity of S-1 in a xenograft model of human castration resistant prostate cancer.	International Journal of Cancer, 130(2):431-42 2012. 1
湧井 宣行 (薬剤部)	粉碎調剤における薬剤曝露評価および新規薬剤懸濁法の開発	2013. 3

2 賞

年 月	表彰名	氏名
2012. 7	第67回 日本消化器外科学会 優秀演題賞 化学放射線療法中にSIADHを生じた食道癌の1例	大伴 直央 小柳 和夫 掛札 敏裕
2012. 11	ヤングユロジストアワード	長谷川 政徳
2012. 7	耳鼻咽喉科臨床学会 学会賞	荒木 康智
2012. 4	教育展示賞 (Superficial lumps in children and young adults: not always a benign entity. 日本医学放射線学会総会)	佐藤 宏朗

3 研究助成及び共同研究

タ イ ト ル	氏 名
平成24年度厚生労働科学特別研究事業 戦略研究の新規課題等に関する研究 (分担研究)	津村 和大
脳腫瘍新生血管を治療標的としたペプチドワクチン療法確立のための効果評価法の開発	植田 良
平成23年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金 若手研究B) 研究課題名: ヒト歯髄幹細胞特異マーカーによる予期的分離と性状解析 補助事業期間: 平成23年度~平成24年度	安居 孝純

4 著 書

著 者	タ イ ト ル	書名、(著者)、編者	発行所	頁	発表年月
野崎博之	健康メモ なぜ足がつるのでしょうか	明日の友 199号	婦人之友社	31	2012. 6
津村和大	地域連携「糖尿病連携手帳の読み方と活用法について教えてください」	薬剤師のための糖尿病療養指導ガイド	じほう	273-277	2012. 5
坂本光男	蚊が媒介するウイルス感染症	感染症内科学、小野寺昭一編	丸善出版	189-195	2013
安藏 慎	体型の異常	小児科 2012年10月増大号(第53巻11号)、福永慶隆・河野 陽一・中西敏雄・岡部 信彦・高橋孝雄	金原出版	1419-1424	2012. 10
安藤枝里子	3歳ですがとても偏食です。どのように対応したらよいですか	小児科診療 特大号/乳幼児健診Q&A (第75巻11号)	診断と治療社	1894-1896	2012. 10
小澤壯治 小柳和夫	手術療法ー内視鏡下食道手術 早期食道癌に対する内視鏡下手術ー腹臥位による胸腔鏡下食道切除術ー	早期食道癌ーそのコンセンサスと最前線ー. 編者 桑野博行	中外医学社 (東京)	121-127	2012. 1
小柳和夫	アデノウイルス, 他24篇	食道疾患用語解説集 第2版. 日本食道学会編	金原出版 (東京)	p12、他24頁	2012. 6
小柳和夫	食道がんの化学放射線療法 食道を温存する化学放射線療法：最新知見.	がんサポート	エビデンス社 (東京)	40-43	2012. 6
田中克典 尾原秀明 藤井 琢 関本康人 大田原正幸 北川雄光 掛札敏裕 小野滋司 内田智夫 朝見淳規 長崎和仁 原田裕久 庄司高裕 林 忍 渋谷慎太郎 藤村直樹 秋好沢林	中枢側neckのIFU外症例に対するEVARの治療成績と問題点	日本外科学会雑誌 臨時増刊号(2)		275	2013. 3. 5
赤羽宏基 田中 求 桑原 強 佐藤知美 小野滋司 星本相淳 壁島康郎	後腹膜より発生した骨外性間葉系軟骨肉腫の1例	日本外科学会雑誌 臨時増刊号(2)		1066	2013. 3. 5

著者	タイトル	書名、(著者)、編者	発行所	頁	発表年月
小柳和夫 市東昌也 相浦浩一 掛札敏裕					
田中 求 小柳和夫 佐藤知美 小野滋司 星本相淳 壁島康郎 市東昌也 相浦浩一 掛札敏裕 川久保博文 大森 泰	食道癌サルベージ手術における周術期の利尿期および胸腔ドレーン抜去時期の検討	日本外科学会雑誌 臨時増刊号(2)		566	2013. 3. 5
小柳和夫 田中 求 壁島康朗 市東昌也 相浦浩一 掛札敏裕	腹臥位胸腔鏡下食道切除術における細径鉗子を用いた左反回神経周囲リンパ節郭清の工夫—Reduced port surgeryの試み	日本外科学会雑誌 臨時増刊号(2)		497	2013. 3. 5
桑原 強 小柳和夫 樋口 格 田中 求 佐藤知美 小野滋司 星本相淳 壁島康郎 市東昌也 相浦浩一 掛札敏裕 井上健太郎	胆嚢捻転症と術前診断し緊急手術を施行した1例	神奈川医学会雑誌		71	2013. 1. 1
小柳和夫 田中 求 壁島 康 市東昌也 相浦浩一 掛札敏裕 大森 泰 中村理恵子 川久保博文	食道表在癌診断に対する消化管内視鏡検査法—その拾い上げと深達度診断—	Prog Dig Endosc		S68	2013
桑原 強 小柳和夫 田中 求 佐藤知美 小野滋司 星本相淳 壁島康郎 市東昌也	胆嚢捻転症と術前診断し緊急手術を施行した1例	日本臨床外科学会雑誌 増刊号		929	2012. 10. 20

著者	タイトル	書名、(著者)、編者	発行所	頁	発表年月
相浦浩一 掛札敏裕 井上健太郎					
松田信作 田中 求 小柳和夫 佐藤知美 小野滋司 星本相淳 壁島康郎 市東昌也 相浦浩一 掛札敏裕	胸部食道内腔全体を占拠した巨大癌肉腫の一例	日本臨床外科学会雑誌 増刊号		814	2012. 10. 20
森 一洋 壁島康郎 田中 求 佐藤知美 小野滋司 星本相淳 小柳和夫 市東昌也 相浦浩一 掛札敏裕	肛門管癌の1治療経験	日本臨床外科学会雑誌 増刊号		809	2012. 10. 20
小柳和夫 田中 求 佐藤順一郎 市東昌也 相浦浩一 掛札敏裕	細径鉗子を用いた腹臥位胸腔鏡下食道切除術の上縦隔視野展開の工夫	日本臨床外科学会雑誌 増刊号		644	2012. 10. 20
壁島康郎 星本相淳 小柳和夫 市東昌也 相浦浩一 掛札敏裕	腹腔鏡下進行大腸癌手術を市中病院で安全に行うための術者・助手の役割分担	日本臨床外科学会雑誌 増刊号		643	2012. 10. 20
壁島康郎 田中 求 小野滋司 星本相淳 小柳和夫 市東昌也 相浦浩一 掛札敏裕	当院におけるFOLF0X6/XELOX療法による大腸癌補助化学療法の結果	日本臨床外科学会雑誌 増刊号		574	2012. 10. 20
壁島康郎 小柳和夫 市東昌也 相浦浩一 掛札敏裕	当院における緩和医療水準向上への取り組み(その成果と問題点)	日本臨床外科学会雑誌 増刊号		506	2012. 10. 20
小柳和夫 田中 求	胸部食道癌根治術後の再発診断におけるPET/CTの有用性	Gen Thorac Cardiovasc Surg		724	2012. 9. 10

著者	タイトル	書名、(著者)、編者	発行所	頁	発表年月
掛札敏裕 田淵 悟					
壁島康郎 小柳和夫 市東昌也 相浦浩一 掛札敏裕	細径大腸内視鏡を用いた苦痛の少ない大腸内視鏡検査への取り組み	Gastroenterol Endosc		2953	2012. 9. 10
関本康人 尾原秀明 松原健太郎 藤井 琢 宮国泰彦 北川雄光 藤村直樹 小野滋司 渋谷慎太郎 掛札敏裕 長崎和仁 林 忍 原田裕久 内田智夫	Excluderを用いたEVAR留置手技の工夫	日本血管外科学会雑誌		561	2012. 5. 1
渋谷慎太郎 小野滋司 掛札敏裕 尾原秀明 北川雄光	固有肝動脈瘤の1切除例	日本血管外科学会雑誌		522	2012. 5. 1
小野滋司 渋谷慎太郎 掛札敏裕 塚田実郎 佐藤宏朗 長谷川市郎 成松芳明	傍腎動脈腹部大動脈瘤切迫破裂に対し腹部分枝再建後にステントグラフト内挿術を施行した1例	日本血管外科学会雑誌		468	2012. 5. 1
尾原秀明 松原健太郎 藤井 琢 関本康人 宮国康彦 北川雄光 掛札敏裕 渋谷慎太郎 小野滋司 内田智夫 朝見淳規 長崎和仁 林 忍 藤村直樹 原田裕久	当科関連多施設におけるEVARの初期～中期成績とIFUの検証	日本血管外科学会雑誌		302	2012. 5. 1
小柳和夫 平岩訓彦	5mm以下の微小早期胃癌症例のNBI拡大内視鏡所見	Gastroenterol Endosc		1262	2012. 4. 10

著者	タイトル	書名、(著者)、編者	発行所	頁	発表年月
壁島康朗 相浦浩一 掛札敏裕 大森 泰 川久保博文					
壁島康朗 掛札敏裕 大森 泰	細径大腸内視鏡PCF - PQ260 L/Iの有用性 —PCF260AIと比較した特徴 と適応—	Gastroenterol Endosc		1087	2012. 4. 10
Harato K	Pseudogout in the early postoperative period after total knee arthroplasty.	J Arthroplasty		28(2):374. e9-374. e11	2013. 2
Harato K	Asymmetry of the Leg Ali gnment Affects TrunkBend ing in the CoronalPlane After UnilateralTotal Kn ee Arthroplasty.	J Arthroplasty		doi:pii: S0883-5403 (12)00556- 6. 10.1016/j. arth.2012. 07.028.	2012. 11
Harato K	Stress fracture of the fi rst metatarsal after tota l knee arthroplasty: Two case reports using gait analysis.	Knee		doi:pii: S0968-0160 (12)00225- 6	2012. 11
Harato K	Asymmetry of the knee ex tension deficit in stand ing affects weight-beari ng distribution in patie nts with bilateral end-s tage knee osteoarthriti s.	Knee Surg Sports Tra umatol Arthrosc			2013. 2
大久保匡 (発 表)	変形性関節症軟骨における Semaphorin 3Aの発現とVEG F165による軟骨細胞遊走に おける競合について	第26回日本軟骨代謝学 会 学会賞講演			2013. 3. 2
大久保匡 小柳貴裕	悪性症候群で発症した両足 関節尖足拘縮に対してアキ レス腱延長術および足関節 固定術施行し、良好な治療 成績を得た1例	神奈川整形災害外科研 究会雑誌			2013. 3. 9
原藤健吾	人工膝関節置換術後早期の 回復過程は年齢により差が あるか	日本整形外科学会雑誌 (0021-5325)87巻3号		890	2013. 3
原藤健吾	当科で人工膝関節置換術前 に施行している糖尿病管理	日本関節病学会誌(188 3-2873)31巻3号		394	2012. 10
金子陽介 小柳貴裕	小児に距骨外側突起骨折を 生じた1例	神奈川整災誌(0285-06 80)39巻2号		272	2012. 7

著者	タイトル	書名、(著者)、編者	発行所	頁	発表年月
原藤健吾	膝前十字靭帯再建術後の歩行に半月板損傷の有無が与える影響	日本臨床スポーツ医学会誌(1346-4159)20巻4号		210	2012. 10
原藤健吾	人工膝関節置換術前後の重心動揺に関する検討	JOSKAS(1884-8842)37巻4号		390	2012. 6
原藤健吾	人工膝関節置換術における駆血使用方法が与える影響について	JOSKAS(1884-8842)37巻4号		352	2012. 6
原藤健吾	高熱を主訴としたVan Neck病の2例	JOSKAS(1884-8842)37巻4号		254	2012. 6
原藤健吾	人工膝関節置換術後に第1中足骨疲労骨折を生じた2例	JOSKAS(1884-8842)37巻2号		240-241	2012. 4
原藤健吾	【まるごとわかる膝関節疾患 病態と治療のキホン】半月板損傷(解説/特集)	整形外科看護(1342-4718)17巻8号		768-772	2012. 8
原藤健吾	膝前十字靭帯損傷患者におけるScrew Home Movementの検討 第2報	理学療法学(0289-3770)39巻Suppl. 2		942	2012. 4
原藤健吾	歩行中の脛骨内旋運動に前十字靭帯損傷と半月板損傷が及ぼす影響	理学療法学(0289-3770)39巻Suppl. 2		251	2012. 4
原藤健吾	足部の位置が前十字靭帯損傷者の膝関節動態に与える影響	理学療法学(0289-3770)39巻Suppl. 2		249	2012. 4
原藤健吾	人工膝関節置換術創閉鎖におけるV-Locの有用性と安全性評価	第43回日本人工関節学会			2013. 2
原藤健吾	高齢者におけるA0分類C1を呈した脛骨近位脆弱性骨折の5例	第38回日本骨折治療学会			2012. 6
Harato K	Unilateral total knee arthroplasty affects trunk bending in the coronal plane in patients with bilateral end-stage knee osteoarthritis	国際人工関節学会2012			2012. 10
Harato K	How Long is the Appropriate Length of Hospital Stay following Total Knee Arthroplasty in Japan?	国際人工関節学会2012			2012. 10
堀内行雄	de Quervain病の診断・治療方針	運動器診療 最新ガイドライン(中村耕三)	総合医学社	452-454	2012. 5
小野欽也	解らないことだらけの放射線被ばく	日本診療放射線技師会	医療科学社	2-7	2013. 3. 27
田熊清継	感染症と化学療法	ナースの外科学 第6版	中外医学社	75-90	2013. 1
小林 岳	加算新設で見直したい 院内感染防止マニュアル	最新医療経営 Phase3 2012. 10月号	日本医療企画	57-61	2012. 10

著者	タイトル	書名、(著者)、編者	発行所	頁	発表年月
小林 岳	「医療経営士」取得を活かし、薬剤師として経営参画を目指す	理論と実践 No5	日本医療企画	44	2012. 7
林 保良 藪野 彰 岩田壮吉	巨大粘膜下筋腫核出術 (TCR)	OGS NOW No11、子宮筋腫 こんなときどうする?叢智を結集して安全手術	メジカルビュー社	98-107	2012

5 刊 行 論 文

著者	論文名	掲載誌			刊行年月
		誌名	巻(号)	頁	
村松和浩 島村めぐみ 野崎博之 城倉 健 永田栄一郎 小山主夫	Post Stroke Syndrome座談会	新薬と臨床	61(6)	1415-1422	2012. 6
木田耕太 野崎博之	結腸癌治療中に発症したTrousseau症候群に対して、アルテプラゼ (t-PA) 静注療法を施行した1例	脳卒中	34	269-272	2012. 6
津村和大	糖尿病腎症患者に対するチームでの取り組み「チーム医療実施後の現状と課題」	看護技術	第58巻第10号	46-51	2012. 9
Koyanagi K Tabuchi S Tawara H Nagata K Ozawa S	Subdiaphragmatic bronchogenic cyst of the esophagus masquerading as a metastatic lymph node of coexisting advanced gastric cancer.	Esophagus	9(1)	49-53	2012. 1
小柳和夫	【最新文献紹介】 Short-segment Barrett食道における高度異形成や早期腺癌の発生リスクはその周在性により規定される.	Gastroenterological Endoscop	54(7)	2107	2012. 7
神山育男 澤藤 誠	上肢虚血性疾患に対し胸腔鏡下胸部交感神経節切除術が奏功した2例	気管支学	35(1)	14-18	2013. 1
Ochi K Horiuchi Y Tazaki K Takayama S Matsumura T	Fascicular constrictions in patients with spontaneous palsy of the anterior interosseous nerve and the posterior interosseous nerve.	J Plast Surg Hand Surg	46	19-24	2012
Ochi K Horiuchi Y Tanabe A Waseda K Kaneko Y Koyanagi T	Shoulder internal rotation elbow flexion test for diagnosing cubital tunnel syndrome.	J Shoulder Elbow Surg	21(6)	777-781	2012

著者	論文名	掲載誌			刊行年月
		誌名	巻(号)	頁	
森田晃造 越智健介 岩部昌平 堀内行雄	橈骨遠位端骨折に対する掌側 ロッキングプレート固定術後 抜釘時所見の検討 ―合併症 回避のために―	日手会誌	28 (6)	586-589	2012
堀内行雄	複合性局所疼痛症候群 (CRPS) の診断と治療のポイント	整形外科	63(4)	363-369	2012. 4
越智健介 堀内行雄 久永 希	II 屈筋腱損傷 2 陳旧例―腱 移植術後の後療法―	MBメディカルリハビリ テーション	145	37-43	2012. 6
Ochi K Horiuchi Y Horiuchi K Kawano Y Matsumura T	A Modification of the Palma ris Longus to Extensor Poll icis Longus Transfer for Ra dial Nerve Palsy	Journal of Hand Sur gery			2012
Ochi K Horiuchi Y Tazaki K Takayama S Matsumura T	Surgical Treatment of Spont aneous Anterior Interosseou s Nerve Palsy: A Comparison between Minimal Incision S urgery and Wide Incision Su rgery	J Plast Surg Hand Surg	47	213-218	2013
Ochi K Horiuchi Y Tazaki K Takayama S Matsumura T	Ulnar nerve strain at the el bow of patients with cubita l tunnel syndrome: Effect o f simple decompression	Journal of Hand Sur gery: European			2012
Ochi K Horiuchi Y Tazaki K Takayama S Nakamura T Satoh K	Slow progression predicts poor prognoses in patients with spontaneous posterior interosseous nerve palsy	J Plast Surg Hand Surg	Early Onlin e	P1-5	2013
越智健介 堀内行雄 田崎憲一 松村崇史 堀内孝一 河野友祐	特発性後骨間神経麻痺の予後 予測因子ならびに治療方針	Peripheral Nerve末梢 神経	23(2)	305-306	2012
越智健介 堀内行雄 田崎憲一 田邊亜矢 野崎博之 堀内孝一 河野友祐	発症17年後に神経束間剥離術 を施行した特発性後骨間神経 麻痺の1例	Peripheral Nerve末梢 神経	23(2)	294-295	2012

著者	論文名	掲載誌			刊行年月
		誌名	巻(号)	頁	
Ochi K Horiuchi Y Morisue H Harato K Tanikawa H Okubo M	Association between the disease severity and extraneural pressure induced by maximum elbow flexion in patients with cubital tunnel syndrome	J Plast Surg Hand Surg	47	219-223	2013
河野友祐 高橋正明 横井秋夫 斉藤憲太	上腕骨 head splitting fracture の2例	整形・災害外科	56(3)	305-308	2013
河野友祐 越智健介 中道憲明 堀内行雄	抜爪法を施行したグロムス腫瘍23例の検討	日本手外科学会雑誌	29(3)	214-217	2012
Matsumura N Nakamichi N	The function of the clavicle on scapular motion: academic study	J Shoulder Elbow Surg.	22(3)	:333-9	2013. 3
金子陽介 小柳貴裕 森重雄太郎 大久保匡 谷川英徳 二宮 研 原藤健吾 中道憲明 堀内行雄	小児に生じた距骨外側突起骨折の1例			神奈川整形災害外科学研究会雑誌 25(5): 193 -195 2012	
田口眞一	有茎広背筋弁を人工血管に巻いた感染性胸部下行大動脈瘤破裂の1手術例	日本心臓血管外科学会雑誌	2012:41	173-177	2012. 7
Taguchi S Tsutsumi K Okamoto M Kashima I	Prophylactic use of intra-aortic balloon pumps in open heart surgery	Artificial Organs	2012:36	1056-1059	2012. 12
Taguchi S Kakefuda T Ono S Matsuda S Mori A Narimatsu Y Hasegawa I Sato H Tsukada J Sugiura H Irie R	Intravenous lobular capillary hemangioma occurring after needle insertion during routine health checkup	Ann Vasc Dis	2013:6	102-105	2013. 3

著者	論文名	掲載誌			刊行年月
		誌名	巻(号)	頁	
佐藤美聡 栗原佑一 西尾有紀子 宮川俊一 濱口儒人 藤本学	胃癌と大腸癌を合併した抗155/140kDa 蛋白抗体陽性の皮膚筋炎の1例	臨床皮膚科	Vol. 66 (No. 9)	701-705	2012. 8
Miyazaki Y Miyajima A Maeda T Yuge K Hasegawa M Kosaka T Kikuchi E Kameyama K Jinzaki M Nakagawa K Oya M	Extrapancreatic solid pseudopapillary tumor: case report and review of the literature.	International Journal of Clinical Oncology	17(2)	165-168	2012. 4
Miyajima A Hattori S Maeda T Hasegawa M Takeda T Kikuchi E Asanuma H Nakagawa K Oya M	Transumbilical approach for laparo-endoscopic single-site adrenalectomy: initial experience and short-term outcome.	International Journal of Urology	19(4)	331-335	2012. 4
Daimon T Miyajima A Maeda T Hattori S Yasumizu Y Hasegawa M Kosaka T Kikuchi E Nakagawa K Oya M	Does pelvic lymph node dissection improve the biochemical relapse-free survival in low-risk prostate cancer patients treated by laparoscopic radical prostatectomy?	Journal of Endourology	26(9)	1199-1202	2012. 9
Hagiwara M Miyajima A Hasegawa M Jinzaki M Kikuchi E Nakagawa K Oya M	Visceral obesity is a strong predictor of perioperative outcome in patients undergoing laparoscopic radical nephrectomy.	BJU International	110(11 Pt C)	E980-984	2012. 12

著者	論文名	掲載誌			刊行年月
		誌名	巻(号)	頁	
Kozakai N Kikuchi E Hasegawa M Suzuki E Ide H Miyajima A Horiguchi Y Nakashima J Umezawa K Shigematsu N Oya M	Enhancement of radiosensitivity by a unique novel NF- κ B inhibitor, DHMEQ, in prostate cancer.	British Journal of Cancer	107(4)	652-657	2012. 8
Hattori S Miyajima A Maeda T Hasegawa M Takeda T Kosaka T Kikuchi E Nakagawa K Shibata H Oya M	Risk factors for perioperative complications of laparoscopic adrenalectomy including single-site surgery.	Journal of Endourology	26(11)	1463-1467	2012. 11
Ide H Kikuchi E Hasegawa M Kozakai N Kosaka T Miyajima A Oya M	Prognostic significance of 5-fluorouracil metabolism-related enzymes and enhanced chemosensitivity to 5-fluorouracil by 5-chloro 2,4-dihydroxy-pyridine in urothelial carcinoma.	BMC Cancer.	22;12:420.		2012. 9
Hattori S Miyajima A Maeda T Hasegawa M Takeda T Kosaka T Kikuchi E Nakagawa K Oya M	Does laparoendoscopic single-site adrenalectomy increase surgical risk in patients with pheochromocytoma?	Surgical Endoscopy	27(2)	593-598	2013. 2
Kaneko G Miyajima A Hasegawa M Kikuchi E Nakagawa K Oya M	Transumbilical laparoendoscopic single-site partial nephrectomy using a microwave tissue coagulator	International Cancer Conference Journal	1	176-179	2012
日高悠葵	疎水性アクリル眼内レンズのグリスニングとホワイトニングにより視機能低下をきたした1例	臨床眼科	67巻2号	199-202	2013. 2

著者	論文名	掲載誌			刊行年月
		誌名	巻(号)	頁	
相馬啓子 國宏幸伸	交通外傷後の嗅覚・味覚障害	耳鼻咽喉科臨床	105巻11号	1091-1100	2012. 11
伊藤まり 相馬啓子 三並美香	補聴器によるTRT (Tinnitus Retraining Therapy) におけるプログラムを設定した1症例	Audiology Japan	55巻4号	218-222	2012. 8
Tsukada J Hasegawa I Sato H Kakefuda T Sugiura T Narimatsu Y	Ectopic cervical thymoma located in the carotid triangle	Jpn J Radiol	Vol. 31	138-142	2013
山本あゆみ 田波 穰 新本 弘	静脈管開存症に対する外科的結紮後に肝外門脈体循環シャントの発達を認めた1例	日本小児放射線学会雑誌	Vol. 29 (No.1)	39-43	2013
福田瑠美 高山 涉 坂口了太 森田慶久 増田純一	「歯科医師の医科麻酔科研修」の現状に関する検討—麻酔科認定病院(神奈川県)へのアンケート調査より—	臨床麻酔	2012;36(7): 1069-74		
三輪桜子 駒井美砂 植松明美 鈴木武志 森田慶久 増田純一	リユーズドタイプバイトブロックの金属内筒が気管内異物となった一症例	神奈川医学会雑誌	2012;39(2): 322		
永井美江 宮下佳子 高山 涉 鈴木武志 増田純一	帝王切開時の電子麻酔記録に工夫を加えた当院の手術部門システム (CIS-OR)	分娩と麻酔	2012;94:12-18		
田熊清継 大城健一 権守 智	外科周術期感染管理教育を熟考する. 日本救急医学会sepsis疫学データ集積研究を利用したsepsis患者に対する抗菌薬投与法の教育	日本外科感染症学会雑誌	9(3)	237-244	2012. 6
田熊清継	夏場の救急傷病 初期対応とケア 四季それぞれに注意すべき救急疾患	臨床看護	38(7)	930-932	2012. 6
青山紘子 田熊清継 堀 進悟	路上生活者の救急受診状況に関する検討	日本救急医学会雑誌	23(9)	375-382	2012. 9
田熊清継 大城健一	熱傷	周術期感染管理テキスト		134-137	2012. 11

著者	論文名	掲載誌			刊行年月
		誌名	巻(号)	頁	
土井賢治 殿岡弘敏 田熊清継	身につけておくべき検査の 手技. 身につけておくべき検査手 技 穿刺・採取・検体 グラム 染色	救急医学	37(3)	308-313	2013. 3
伊藤真梨	めまいが起きたら	Jarnal of clinical rehabilitation	21(8)	781-785	2012
伊藤真梨 村岡香織	栄養管理の落とし穴 - リフイ ーディング症候群	Janral of clinical rehabilitation	22(2)	174-179	2013
Tomita K Teratani T Suzuki T Oshikawa T Yokoyama H Shimamura K Nishiyama K Mataki N Irie R Minamino T Okada Y Ebinuma H Saito H Shimizu I Yoshida Y Hokari R Sugiyama K Hatsuse K Yamamoto J Kanai T Miura S Hibi T	P53/p66Shc-mediated signali ng contributes to the progr ession of non-alcoholic ste atohepatitis in human and m ice	J Hepatol	57(4)	837-843	2012. 10

著者	論文名	掲載誌			刊行年月
		誌名	巻(号)	頁	
Ishikawa Y Akasaka Y Akishi- ma-Fukasawa Y Iuchi A Suzuki K Uno M Abe E Yang Y Li CP Mukai K Niino H Tanaka M Kawahara Y Sugiura H Shinagawa T Morinaga S Ogata K Onuma J Yanagida-Iida M Taki K Komatsu A Sato H Yamada K Shimokawa R Shibuya K Takahashi K Ishii T	Histopathologic profiles of coronary atherosclerosis by myocardial bridge underlying myocardial infarction	Atherosclerosis	226	118-123	2013. 1
Tsukada J Hasegawa I Sato H Kakefuda T Sugiura H Narimatsu Y	Ectopic cervical thymoma located in the carotid triangle	Jpn J Radiol	31(2)	138-142	2013. 2
Shirakawa H Kozakai N Sawafuji M Sugiura H Hara S	Urinary bladder metastasis originating from lung adenocarcinoma: a case definitely diagnosed by immunohistochemistry	Urol J	9(2)	530-532	2012
Yokoyama A Hirota T Omori T Yokoyama T Kawakubo H Matsui T Mizukami T Mori S	Development of squamous neoplasia in esophageal iodine-unstained lesions and the alcohol and aldehyde dehydrogenase genotypes of Japanese alcoholic men	Int J Cancer	130(12)	2949-2960	2012. 6

著者	論文名	掲載誌			刊行年月
		誌名	巻(号)	頁	
Sugiura H Maruyama K					
Taguchi S Kakefuda T Ono S Matsuda S Mori A Narimatsu Y Hasegawa I Sato H Tsukada J Sugiura H Irie R	Intravenous lobular capillary hemangioma occurring after needle insertion during routine health checkup	Ann Vasc Dis	6(1)	102-105	2013
Wakui N Mitui M Yano Y	Determination of exposure of dispensary drug preparers to cyclophosphamide by passive sampling and liquid chromatography with tandem mass spectrometry.	J Oncol Pharm Pract.	19	31-37	2013. 1
Lin BL Higuchi T Yabuno A Kashinoura K Suzuki T Kim SH Iwata S	One-step hysteroscopic myomectomy using Lin dissecting loop and Lin myoma grasper	Journal of Minimally Invasive Gynecology	2012;1	27-33	
Higuchi T Tanaka M Kuroda K Yabuno A Seon Hye Kim Asai S Iwata S Miyakoshi K	Abnormal first-trimester fetal nuchal translucency and amniotic band syndrome	J Med Ultrasonics	(2012) 39	177-180	2012-3-9
林 保良 鈴木 毅 原田佳奈 安達将隆 黒田恵子 藪野 彰 金 善恵 浅井 哲 樋口隆幸 村越行高 染谷健一 岩田壮吉	中隔子宮に対する子宮鏡下子宮形成術の工夫	産婦人科手術	2012 ; 23	9-15	

6 講演

演題	演者	学会	発表年月
脳卒中の治療, そして予防	野崎 博之	川崎市市民公開講座	2012. 6
糖尿病足病変の病態と治療 ―指導者としての心得―	津村 和 大	平成24年度第1回糖尿病足病変の指導者研修	2012. 6
戦略研究の意義と大規模臨床研究としての戦略研究の仕組み	津村 和 大	厚生労働省平成24年度戦略研究に向けた研究実施計画書作成に関する研究公募説明会	2012. 6
糖尿病足病変の病態と治療 ―指導者としての心得―	津村 和 大	平成24年度第2回糖尿病足病変の指導者研修	2012. 9
糖尿病患者さんの初診から逆紹介まで ―糖尿病治療の選択肢を考える―	津村 和 大	第3回川崎区糖尿病診療を考える会	2012. 9
若手医師に魅力的な研修・勤務環境とは	津村 和 大	第8回神奈川糖尿病治療講演会	2012. 10
科学研究費の申請に際する留意点	津村 和 大	第8回神奈川糖尿病治療講演会	2012. 10
糖尿病足病変の病態と治療 ―指導者としての心得―	津村 和 大	平成24年度第3回糖尿病足病変の指導者研修	2012. 12
糖尿病の基礎知識 ―病態生理から治療まで―	津村 和 大	日本下肢救済・足病学会第2回糖尿病重症化予防研修	2013. 2
糖尿病足病変の病態と治療 ―指導者としての心得―	津村 和 大	平成24年度第4回糖尿病足病変の指導者研修	2013. 3
頻回の希死念慮と緊張病症状を呈したDLBの1例	高橋 達一郎	第4回川崎精神病理研究会	2012. 5
日々おびえる女性―クスリ、不安との闘い―	根 本 康	第2回六郷川精神医療懇話会	2012. 6
頻回の希死念慮と緊張病症状を呈したDLBの1例―その後の経過報告	高橋 達一郎	第4回川崎精神病理研究会	2012. 11
妊娠中に発症し、抗NMDA受容体抗体が陽性であった若年女性脳炎の1例	高橋 達一郎	第3回六郷川精神医療懇話会	2012. 11
しがない小児科医の独り言	安 藏 慎	平成24年度宮前市民館 家庭・地域教育学級「子育て応援教室」	2012. 6
低身長症をきたす疾患の診断のポイント	安 藏 慎	日本イーライリリー社 Web Conference 「低身長の診断と鑑別のピットフォール」	2012. 10
小児の内分泌代謝疾患の救急	安 藏 慎	第24回奈良小児内分泌研究会	2012. 10
座高を測って何の意味があるの？	安 藏 慎	Forum Growth Hormone Research 2012 「教科書に載っていない成長障害診療のコツ」	2012. 11
ツールの機能を最大限利用した危険因子評価票の作成	檜 林 敦	電子カルテフォーラム 利用の達人 第8回 導入/運用ノウハウ事例発表会	2012. 9
ブラウザの右クリックメニューの活用による医療安全対策	檜 林 敦	電子カルテフォーラム 利用の達人 第8回 導入/運用ノウハウ事例発表会	2012. 9
当院でおこなっている46の工夫	檜 林 敦	電子カルテフォーラム 利用の達人 第8回 導入/運用ノウハウ事例発表会	2012. 9

演 題	演 者	学 会	発表年月
院内ルール統一化はいばらの道	檜 林 敦	第4回 電子カルテ運用セミナーワークショップ(岩手医科大学)	2013. 2
腹臥位胸腔鏡下食道切除	小柳 和夫 平岩 訓彦 掛札 敏裕	第2回 食道外科医育成セミナー	2102. 3
消化管GIST治療の動向 ―自験例とともに―	小柳 和夫 平岩 訓彦 掛札 敏裕	第1回 GUNMA pNET/GIST FORUM 2012	2012. 4
外来における手の外科診療のコツ	堀内 行雄	第98回 千葉県臨床整形外科医会研修会	2012. 4. 21
外来における手の外科診療のコツ ―CRPSの診療を含めて―	堀内 行雄	第11回 富山スプリングスポーツセミナー	2012. 5. 12
外来における手の外科診療のコツ ―CRPSの初期治療を含めて―	堀内 行雄	第24回 厚木整形外科医会学術講演会	2012. 5. 31
超高齢社会における運動器の健康！ ―ロコモ体操のすすめ―	堀内 行雄	市民公開講座 (川崎市)	2012. 10. 14
外来における手の外科診療のコツ	堀内 行雄	群馬整形外科研修会	2012. 12. 11
手・肘外傷プライマリケアの要点	堀内 行雄	平成24年度第4回 東京都臨床整形外科医会統合研修会	2013. 1. 12
日常臨床における腱板断裂の診断と治療	中道 憲明	第125回 神奈川臨床整形外科医会	2012. 11. 17
The Impact of Changes in Posterior Corneal Aberrations After Cataract Surgery	Yuki Hidaka	The Association for Research in Vision and Ophthalmology	2012. 5
Decrease of Visual Function due to Glazing and Whitening of a Hydrophobic Acrylic Intraocular Lens	Yuki Hidaka	European Society of Cataract & Refractive Surgeons	2012. 9
学会賞受賞記念講演 ペーパークラフト模型による副鼻腔の3次元立体解剖実習	荒木 康智	第74回耳鼻咽喉科臨床学会	2112. 7. 5
脳脊髄液減少症	相馬 啓子	川崎市学校保健会	2012. 10. 26
頭頸部扁平上皮癌細胞自身におけるFlt-4(VEGFR-3)発現の基礎的および臨床的検討	重富 征爾	第9回頭頸部腫瘍セミナー	2012. 11. 30
脳脊髄液減少症について	相馬 啓子	全国学校保健・養護教諭担当指導主事会研究会	2013. 2. 2
ファンビームコリメータ画像とコリメータ開口補正画像の比較	小林 水紀	神奈川核医学研究会	2012. 11
レントゲン週間 「放射線って何？」	小林 水紀 齋藤 敦子	日本放射線技師会 レントゲン週間	2012. 11. 4
レントゲン週間 「CTの画像再構成について」	小林 水紀 小野 欽也	日本放射線技師会 レントゲン週間	2012. 11. 4
マンモグラフィのポジショニングの基礎	小林 水紀	神奈川乳房画像研究会	2012. 11. 17

演 題	演 者	学 会	発表年月
「神奈川県医師会主催マンモグラフィ撮影技術講習会」講師	小林 水紀	神奈川県医師会主催 検診マンモグラフィ精度管理 中央委員会共催	2012. 12. 16-17
CT装置の安全管理	小切 孝洋	日本放射線技術学会 第5回CTセミナー	2012. 9. 15
放射線の基礎知識	齋藤 敦子	横須賀市 ウエルシティ元気アップサン デー（日曜健康教室）	2012. 10. 21
Superficial lumps in children and young adults: not always a benign entity	佐藤 宏朗	東海道画像診断懇話会	2012. 10. 24
頭頸部腫瘍のバリエーション	佐藤 宏朗	日本小児放射線学会セミナー	2013. 01. 26
ペースメーカー植込み患者に対して放射線治療を行った一症例	三 嶽 秀介	東海道画像診断懇話会	2012. 10. 24
改正障害防止法における放射化物の取り扱いについて	小野 欽也	愛知県放射線技師会 新春セ ミナー	2013. 1. 22
日本におけるオピオイド使用の歴史	増田 純一	昭和大学医学部麻酔学講座講 演会（東京）	2012. 12. 15
重症熱傷・皮膚軟部組織感染症におけるMRSA感染の特徴	田熊 清継	第40回日本救急医学会総会・学 術集会 教育セミナー3 201 2	2012. 11
ビスフォスフォネート関連顎骨壊死	岩崎 良太郎	第16回川崎病院症例検討会	2012. 12. 21
ヒヤリハット ートラブル症例に学ぶ Part3ー	鬼澤 勝弘	第17回川崎病院症例検討会	2013. 2. 22
～感染管理看護師のための抗菌薬基礎講座 ～ 抗菌薬の考え方、使い方（第1部）	小林 岳	第7回日本感染管理ネットワー ク神奈川地方研修会	2012. 10. 20
川崎市立川崎病院における抗菌薬適正使用への取り組み	小林 岳	第5回KAWASAKI地域感染制御協 議会	2012. 12. 7
～感染管理看護師のための抗菌薬基礎講座 ～ 抗菌薬の考え方、使い方（第2部）	小林 岳	第8回日本感染管理ネットワー ク神奈川地方研修会	2013. 1. 26
栄養部門の活動報告 ーNST専従者としての報告ー	亀山 亜希夫	川崎市病院栄養管理部会第2回 研修会	2012. 6. 26
食品交換表の使用が難しい方への栄養指導の実際	亀山 亜希夫	第47回明日からの実践に役立つ川崎糖尿病セミナー	2012. 9. 21
実践！糖尿病療養指導	太田 博子	第3回川崎区糖尿病診療を考 える会	2012. 9. 26
難治性下痢患者に対して栄養サポートチームとして介入した一例	亀山 亜希夫	神奈川県栄養士会医療事業部 臨床栄養セミナー	2012. 10. 21
糖尿病と食事『楽しく実践！カロリークイズ体験』	太田 博子	神奈川糖尿病デー2012市 民講座	2012. 11. 10

7 シンポジウム

演題	演者	学会	発表年月
糖尿病の発症・進展予防と食育	津村 和大	第58回神奈川県公衆衛生学会	2012. 11
アクション2012 ～診療放射線技師におけるキャリアアップのすすめ ・他病院への転職経験者として	三嶽 秀介	第29回 日本核医学技術学会 関東地方会総会	2012. 5. 12
核医学担当技師の教育を考える —新配属職員の指導を中心に—	小切 孝洋	第29回 日本核医学技術学会 関東地方会総会	2012. 5. 12

8 学会発表

演題	演者	学会	発表年月
MMSEが正常のパーキンソン病患者の認知機能障害検出のためのMoCA-Jの有用性の検討	関 守 信 鈴木 則 宏 小張 昌 宏 美 原 盤 五十棲 一男 太田 晃 一 村松 和 浩 白井 俊 孝 高橋 一 司 野崎 博 之 後 藤 淳 山口 啓 二 富 田 裕 佐 藤 秀 樹 安 富 大 祐 二 瓶 義 廣 岩 澤 聡 子	第53回日本神経学会学術大会	2012. 5
管理栄養士による糖尿病食事教育の長期的効果の検討	高井 久仁庸 井上 光子 伊藤 玲奈 倉崎 康太郎 津村 和大	第55回日本糖尿病学会年次学術集会	2012. 5
インスリン治療導入患者における良好な血糖管理維持に繋がる要因の分析	井上 光子 伊藤 玲奈 高井 久仁庸 倉崎 康太郎 津村 和大	第55回日本糖尿病学会年次学術集会	2012. 5
糖尿病腎症の進展に関する実態調査	倉崎 康太郎 井上 光子 伊藤 玲奈 高井 久仁庸 津村 和大	第55回日本糖尿病学会年次学術集会	2012. 5
インフリキシマブの投与により甲状腺機能亢進症に転じた阻害型抗TSH受容体抗体陽性バセドウ病の1例	岩 垣 端 礼 津村 和大 海 瀬 綾 子 井上 光子 倉崎 康太郎	第591回日本内科学会関東地方会例会	2012. 10

演 題	演 者	学 会	発表年月
	伊藤 大輔 有馬 功一郎 岡野 裕 秋月 哲史 小井戸 則彦		
関節超音波による関節リウマチ (RA) の臨床的疾患活動性の評価	田口 博章 西 和男 鈴木 貴博 岡野 裕 秋月 哲史	第109回日本内科学会総会講演会	2012. 4
Assessment of rheumatoid arthritis disease activity by power Doppler ultrasonography: association with routine clinical indices and its usefulness in detecting remission	Taguchi H Ishi K Kudo T Okano Y	第76回米国リウマチ学会	2012. 11
妊娠を契機に発症した抗NMDA受容体脳炎の1例	澤野 充明 黒田 葵 野崎 博之 鈴木 貴博 岡野 裕	第587回日本内科学会関東地方会	2012. 5
肝生検で診断した症候性肝サルコイドーシスの1例	濱田 祥子 西 和男 工藤 雄大 田口 博章 玉井 博修 大曾根 康夫 岡野 裕 秋月 哲史	第588回日本内科学会関東地方会	2012. 6
粘膜炎汚染事故を契機に診断された肺ノカルジア症を合併したHIV感染症の1例	宮内 里沙 中島 由紀子 大伴 直央 坂本 光男 岡野 裕 秋月 哲史	第589回日本内科学会関東地方会	2012. 7
原因不明の急性膵炎を繰り返し、経過中に通常型膵癌を発症した遺伝性膵炎の1例	海瀬 綾子 井上 健太郎 郷内 志朗 有泉 健 高木 英恵 玉井 博修 伊藤 大輔 岡野 裕 秋月 哲史	第590回日本内科学会関東地方会	2012. 9
膿胸術後に肺泡出血をきたしリツキシマブが奏効した後天性凝固因子インヒビターの1症例	山田 悠史 宮川 義隆 伊藤 大輔 岡野 裕 神山 育男 澤藤 誠 秋月 哲史	第592回日本内科学会関東地方会	2012. 11

演 題	演 者	学 会	発表年月
Bacteroides菌血症、敗血症性肺塞栓症、膿胸を呈したLemierre症候群の1症例	山田 万里恵 山田 悠史 佐山 宏一 坂本 光男 伊藤 大輔 岡野 裕 神山 育男 澤藤 誠 秋月 哲史	第593回日本内科学会関東地方会	2012. 12
β遮断薬によって誘発された冠攣縮性狭心症が疑われた1例	澤野 充明 深江 智明 高橋 賢至 難波 貴之 李 慧崇 古田 晃 西澤 健也 末吉 浩一郎 岡野 裕 秋月 哲史	第594回日本内科学会関東地方会	2013. 2
赤痢アメーバ症に関する調査－2010～2011年－	中村 暢宏 坂本 光男 中島 由紀子	第86回日本感染症学会総会（長崎）	2012
家庭内で二次感染したと考えられる成人手足口病の2例	坂本 光男 中島 由紀子 中村 暢宏 西 和男 田口 博章 野崎 博之 秋月 哲史	第86回日本感染症学会総会（長崎）	2012
粘膜汚染事故を契機に診断された肺ノカルジア症を合併したHIV感染症の一例	宮内 里沙 中島 由紀子 坂本 光男 岡野 裕 秋月 哲史	第589回日本内科学会関東地方会（東京）	2012
イソニアジド単剤を内服中に重篤な薬剤性肝炎を発症した潜在性結核感染症の一例	倉持 智洋 吉永 怜史 中島 由紀子 玉井 博修 坂本 光男 岡野 裕 秋月 哲史	第72回神奈川県感染症医学会（横浜）	2012
旅行者下痢症	坂本 光男	第7回輸入感染症講習会（東京）	2012
ステロイド長期投与によりサイトメガロウイルス（CMV）性肛門潰瘍を認めたAIDSの一例	中島 由紀子 坂本 光男 西 和男 田口 博章 野崎 博之 秋月 哲史	第61回日本感染症学会東日本地方会 学術集会（東京）	2012
HIV 感染症を疑う一既往、症状、所見	中島 由紀子	エイズ講演会 藤沢医師会（藤沢）	2013
HIV感染（を疑う）患者が外来に来たら	中島 由紀子	エイズ講演会 座間綾瀬医師会（座間）	2012

演 題	演 者	学 会	発表年月
リエゾン精神医療に関する実態調査- 後方視的調査と他科医師へのアンケート	猪飼 紗恵子	第108回日本精神神経学会学術総会	2012. 5
希死念慮を伴う末期がん患者への対応 で苦慮した双極性感情障害の1例	根 本 康	第25回日本サイコオンコロジー学会	2012. 9
精神運動興奮を呈したWilson 病の1例	根 本 康	第25回総合病院精神医学会 学術総会	2012. 11
妊娠中に発症し、抗NMDA受容体抗体が陽 性であった若年女性脳炎の1例	高橋 達一郎	第25回総合病院精神医学会 学術総会	2012. 11
著明なアシドーシスをきたした非けい れん性てんかん発作重積	坂口 友理 後藤 知英 安蔵 慎 高橋 孝雄	第54回日本小児神経学会総会	2012. 5
ロタウイルス腸炎の経過中に十二指腸 潰瘍穿孔による汎発性腹膜炎を来した2 歳男児例	山口 哲司 佐藤 尚栄 石川 真由美 安藤 枝里子 檜 林 敦 松岡 恵歩 中尾 歩 安蔵 慎	第318回日本小児科学会神奈川県地方 会	2012. 9
発熱以外の症状・所見がなく、治療に難 渋したパルツネラ感染症の1例	檜 林 敦 中尾 歩	第61回日本感染症学会東日本地方会 学術集会	2012. 10
気管支喘息児におけるsingle-breath法 とmultiple-breath法での呼気中一酸化 窒素 (eNO) 濃度の比較	安藤 枝里子 磯崎 淳 小張 真吾 田中 晶 菊池 信行 遠藤 順治 古家 正 中村 陽一 菅井 和子	第62回日本アレルギー学会秋季学術 大会	2012. 11
安全な直腸癌手術の為の直腸筋膜 (rectal fascia)と左側結腸生理学的特 徴の重要性	壁島 康郎	大腸肛門病学会 (福岡)	2012. 11. 17
一般ビデオ: 胸腔鏡下右肺上葉切除術 後の中葉捻転の1例	澤藤 誠 神山 育男	第29回日本呼吸器外科学会総会	2012. 5
バルーンカテーテルによるドレナージ を用いて非侵襲的に外来通院で治癒し 得た膿胸の1例	神山 育男 澤藤 誠	第29回日本呼吸器外科学会総会	2012. 5
MRCPで内瘻が描出できた右腭性胸水の1 例	神山 育男 澤藤 誠	第29回日本呼吸器外科学会総会	2012. 5
胸腔鏡下手術を施行した特発性血気胸 の3例	神山 育男 澤藤 誠	第35回日本呼吸器内視鏡学会学術集 会	2012. 6
陳旧性肺結核による気道出血に対する 動脈塞栓術後の左肺全摘術	神山 育男 澤藤 誠	第35回日本呼吸器内視鏡学会学術集 会	2012. 6

演 題	演 者	学 会	発表年月
非小細胞肺癌完全切除後再発例の検討	澤 藤 誠 神 山 育 男	第53回日本肺癌学会総会	2012. 11
右上葉切除術後再発に対し化学療法および中葉切除術を施行した肺大細胞神経内分泌癌の1例	神 山 育 男 澤 藤 誠	第53回日本肺癌学会総会	2012. 11
希釈フィブリン糊大量胸腔内注入および胸腔内ピオクタニン洗浄で治癒した、ドレナージ中にMRSA感染を生じた高齢者難治性気胸の1例	澤 藤 誠 奥 井 将 之 神 山 育 男	第5回神奈川呼吸器外科研究会	2012. 11
腫瘍形成を伴う癌性髄膜炎の治療	片 山 真 植 田 良 竹 中 信 夫 今 西 智 之	第9回信濃町脳腫瘍セミナー	2013. 2. 16
関節リウマチの骨髄と末梢血CD14+単球のフェノタイプ解析	瀬 田 範 行 岡 崎 有 佳 越 智 健 介 島 岡 康 則 堀 内 行 雄 竹 内 勤 桑 名 正 隆	第56回 日本リウマチ学会（東京）	2012. 4. 26-28
グロムス腫瘍23例の検討	河 野 友 祐 越 智 健 介 中 道 憲 明 堀 内 行 雄	第55回 日本手外科学会学術集会（横浜）	2012. 4. 19-20
肘部管症候群に対する新しい症状誘発テスト（肩内旋肘屈曲テスト）	越 智 健 介 堀 内 行 雄 松 村 崇 史 中 道 憲 明 河 野 友 祐	第55回 日本手外科学会学術集会（横浜）	2012. 4. 19-20
肘部管症候群患者における尺骨神経の伸張度変化—神経剥離術前後の比較—	越 智 健 介 堀 内 行 雄 森 田 晃 造 中 道 憲 明 河 野 友 祐	第55回 日本手外科学会学術集会（横浜）	2012. 4. 19-20
特発性後骨間神経麻痺の予後予測因子ならびに治療方針	越 智 健 介 堀 内 行 雄 田 崎 憲 一 松 村 崇 史 堀 内 孝 一 河 野 友 祐	第23回 日本末梢神経学会（福岡）	2012. 8. 31- 9. 1
発症17年後に神経束間剥離術を施行した特発性後骨間神経麻痺の1例	越 智 健 介 堀 内 行 雄 田 崎 憲 一 田 邊 亜 矢 野 崎 博 之 堀 内 孝 一 河 野 友 祐	第23回 日本末梢神経学会（福岡）	2012. 8. 31- 9. 1
clinical features of glomus tumors of the hand : a retrospective study of 27	Kawano Y Horiuchi Y	9回 APSSH（バリ）	2012. 10. 11- 13

演 題	演 者	学 会	発表年月
cases	Ochi K Nakamichi N Horiuchi K		
Osteoid osteoma of the distal phalanx of the ring finger with clubbed finger deformity; a case report	Horiuchi K Horiuchi Y Ochi K Kawano Y Nakamichi N	9回 APSSH (バリ)	2012. 10. 11-13
右小指PIP関節掌側脱臼骨折の1例	堀内 孝一 堀内 行雄 河野 友祐 中道 憲明 森重 雄太郎 飯田 剛 大久保 匡 谷川 英徳 金子 康仁 原藤 健吾 森末 光 小柳 貴裕	第28回 神奈川上肢外科学研究会 (横浜)	2012. 10. 20
鎖骨遠位端骨折の治療成績	中道 憲明 堀内 孝一 堀内 行雄 河野 友祐 森重 雄太郎 飯田 剛 大久保 匡 谷川 英徳 金子 康仁 原藤 健吾 森末 光 小柳 貴裕	第18回 神奈川上肢外科学研究会 (都市センター)	2012. 10. 20
同一指に発生したDIP・PIP関節脱臼骨折の1例	堀内 孝一 堀内 行雄 河野 友祐 中道 憲明	第27回 東日本手外科学研究会 (東京)	2013. 1. 26
肘部管症候群の疾患重症度と肘部管内圧の相関	越智 健介 堀内 行雄 中村 俊康 佐藤 和毅 河野 友祐 堀内 孝一	第25回 日本肘関節学会 (都市センター)	2013. 2. 8-9
偽性神経腫を伴った両側橈骨管症候群の1例	堀内 孝一 堀内 行雄 越智 健介 河野 友祐 中道 憲明	第25回 日本肘関節学会 (都市センター)	2013. 2. 8-9

演 題	演 者	学 会	発表年月
上腕骨頭割裂骨折の2例	河野 友祐 高橋 正明 横井 秋夫 斉藤 憲太	第38回 骨折治療学会 (東京)	2012. 6. 29-30
肩甲下筋内に発生した巨大脂肪腫の1例	河野 友祐 中道 憲明	第39回 肩関節学会 (東京)	2012. 10. 5-6
Ulnar nerve strain at the elbow of patients with cubital tunnel syndrome: Effect of simple decompression	Ochi K Horiuchi Y Arino H Morita K Kawano Y Horiuchi K	67 American Society of Surgery of the Hand (Chicago)	2012. 9
Association between extraneural pressure in the cubital tunnel and disease severity of cubital tunnel syndrome	Ochi K Horiuchi Y Arino H Morita K Kawano Y Horiuchi K	67 American Society of Surgery of the Hand (Chicago)	2012. 9
Surfer's myelopathyの一例	森重 雄太郎 小柳 貴裕 金子 康仁 他	第147回 神奈川整形災害外科研究会 (横浜)	2013. 3. 9
心嚢内腫瘍の3例-その画像診断、手術所見、病理診断について-	田口 眞一 森 厚夫 鈴木 亮	第160回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (東京)	2012. 11. 10
Three cases of intrapericardial tumors. Preoperative diagnoses, operative methods, and pathological findings.	Taguchi S Mori A Suzuki R Ishida O	4th Annual International Congress of Cardiology. (広州)	2012. 12. 2-4
A型大動脈解離に対する上行大動脈送血の簡便性、コツ、注意点	田口 眞一 森 厚夫 鈴木 亮 石田 治	第43回日本心臓血管外科学会学術総会 (東京)	2013. 2. 25-27
健康診断時の針刺しが原因と考えられる Intravenous Lobular Capillary Hemangiomaの1手術例	松田 信作 田口 眞一 小野 滋司 掛札 敏裕	第30回川崎市医師会医学会 (川崎)	2013. 2. 23
Schwannomatosisの一例	栗原 佑一 田中 京子 宮川 俊一 大久保 匡	第111回日本皮膚科学会 総会	2012. 6
胃癌と大腸癌を合併した抗155/140kDa 蛋白抗体陽性の皮膚筋炎の1例	佐藤 美聡 栗原 佑一 西尾 有紀子 宮川 俊一 濱口 儒人 藤本 学	日本皮膚科学会 東京支部 第848回 合同臨床学術大会	2012. 7

演 題	演 者	学 会	発表年月
後天性血友病を合併した水疱性類天疱瘡の一例	栗原 佑一 田中 京子 宮川 俊一 四枚田 耕平	第76回日本皮膚科学会 東部支部学術大会	2012. 9
皮膚所見が膝炎診断の契機になった皮下結節性脂肪壊死症の一例	栗原 佑一 土井 亜希子 宮川 俊一 有 泉 健	第76回日本皮膚科学会 東京支部学術大会	2013. 2
ALK陽性未分化大細胞型リンパ腫の一例	熊谷 宜子 栗原 佑一 土井 亜希子 宮川 俊一 四枚田 耕平 入江 理恵	日本皮膚科学会 第847回東京地方会	2013. 1
Calciophylaxisの一例	龍 神 操 栗原 佑一 土井 亜希子 田中 京子 宮川 俊一	第76回日本皮膚科学会 東京支部学術大会	2013. 2
単孔式腹腔鏡下副腎摘除術ではCTによる体脂肪の評価がBody mass indexよりも手術難易度の予測に有用である	長谷川 政徳 宮 嶋 哲 陣崎 雅弘 前田 高宏 武田 利和 菊地 栄次 中川 健 大家 基嗣	第100回日本泌尿器科学会総会	2012. 4
臍部単孔式腹腔鏡下副腎摘除術の初期経験	宮 嶋 哲 服部 盛也 長谷川 政徳 武田 利和 石田 勝 前田 高宏 菊地 栄次 中川 健 大家 基嗣	第100回日本泌尿器科学会総会	2012. 4
前立腺体積別のdutasterideの効果の検討	前田 高宏 菊地 栄次 長田 浩彦 長谷川 政徳 篠田 和伸 水野 隆一 宮 嶋 哲 中川 健 大家 基嗣	第100回日本泌尿器科学会総会	2012. 4
腹腔鏡下前立腺全摘術後のリンパ嚢腫予防に関する検討	安水 洋太 宮 嶋 哲 前田 高宏 武田 利和 長谷川 政徳	第100回日本泌尿器科学会総会	2012. 4

演 題	演 者	学 会	発表年月
	篠田 和伸 香野 日高 水野 隆一 菊地 栄次 長田 浩彦 浅沼 宏 中川 健 大家 基嗣		
The visceral type of adipose accumulation predicts potential technical difficulties when performing laparoscopic adrenalectomy	Hasegawa M Miyajima A Jinzaki M Maeda T Takeda T Kikuchi E Nakagawa K Oya M	American Urological Association, Annual meeting 2012	2012. 5
Therapeutic effect after transumbilical laparoscopic single-site adrenalectomy in patient with primary aldosteronism: a matched case-control study	Maeda T Miyajima A Hasegawa M Hattori S Takeda T Kosaka T Kikuchi E Nakagawa K Oya M	American Urological Association, Annual meeting 2012	2012. 5
A prospective study of the effect of 5-alpha-reductase inhibitor (dutasteride) treatment on serum free testosterone level and aging male symptoms in Japanese patients with benign prostatic hyperplasia	Maeda T Kikuchi E Hasegawa M Kaneko G Shinoda K Kono H Mizuno R Nagata H Asanuma H Miyajima A Nakagawa K Oya M	American Urological Association, Annual meeting 2012	2012. 5
The effect of visceral fat on the surgical outcomes in open and laparoscopic partial nephrectomy	Kaneko G Miyajima A Hasegawa M Hagiwara M Kikuchi E Nakagawa K Oya M	11th Asian Congress of Urology	2012. 8
Laparoendoscopic single-site adrenalectomyにおいてCTによる体脂肪の評価は手術難易度の予測に有用である	長谷川 政徳 宮嶋 哲 陣崎 雅弘 前田 高宏 武田 利和 菊地 栄次	第26回日本泌尿器内視鏡学会総会	2012. 11

演 題	演 者	学 会	発表年月
	原 智 中 川 健 大 家 基 嗣		
腹腔鏡下腎摘除術では、どんな術者が内臓脂肪の影響を受けるのか？	弓 削 和 之 宮 嶋 哲 金 子 剛 萩 原 正 幸 長谷川 政 徳 武 田 利 和 菊 地 栄 次 中 川 健 大 家 基 嗣	第26回日本泌尿器内視鏡学会総会	2012. 11
褐色細胞腫に対する単孔式腹腔鏡下手術の安全性に関する検討	服 部 盛 也 宮 嶋 哲 前 田 高 宏 武 田 利 和 長谷川 政 徳 菊 地 栄 次 中 川 健 大 家 基 嗣	第26回日本泌尿器内視鏡学会総会	2012. 11
前立腺周囲脂肪が腹腔鏡下前立腺全摘術の手術成績へ与える影響の検討	金 子 剛 宮 嶋 哲 弓 削 和 之 矢 澤 聰 長谷川 政 徳 武 田 利 和 菊 地 栄 次 中 川 健 大 家 基 嗣	第26回日本泌尿器内視鏡学会総会	2012. 11
Visceral obesity is associated with better recurrence-free survival after surgeries for localized clear cell renal cell carcinoma	Kaneko G Miyajima A Yuge K Hasegawa M Kikuchi E Nakagawa K Oya M	28th Annual EAU Congress	2013. 3
外傷後症例における味覚障害の検討	相 馬 啓 子 國 弘 幸 伸 荒 木 康 智	第113回日本耳鼻咽喉科学会	2012. 5. 11
髄膜炎で発見された巨大真珠腫の術後に脳膿瘍を来たした一例	三 浦 康 士 郎 相 馬 啓 子	第22回日本耳科学会	2012. 10. 5
交通外傷後の成人機能性難聴における語音聴力検査の検討	相 馬 啓 子 國 弘 幸 伸 三 浦 康 士 郎	第22回日本耳科学会	2012. 10. 4
補聴器によるTRTにおける治療経過の検討	伊 藤 まり 佐 藤 永 通 子 相 馬 啓 子	第57回日本聴覚医学会	2012. 10. 11

演 題	演 者	学 会	発表年月
小児脳脊髄液減少の2例	相馬 啓子 國弘 幸伸	第71回日本めまい平衡医学会	2012. 11. 30
自覚的視性垂直位 (SVV) の著明な傾斜が認められた脳脊髄液減少症と外リンパ瘻が合併した難治性の3例	國弘 幸伸 相馬 啓子	第71回日本めまい平衡医学会	2012. 11. 30
診断に難渋した脳脊髄液減少症の1例	藤田 紘子 相馬 啓子 國弘 幸伸	第71回日本めまい平衡医学会	2012. 11. 30
頸部リンパ節腫大で発見された二次性アミロイドーシスの一例	三浦 康士郎 荒木 康智 坂田 絢子	第159回 日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会	2012. 6. 23
両側鼻腔ポリープと思われた多形悪性腺癌	坂田 絢子 相馬 啓子 三浦 康士郎	第160回 日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会	2012. 9. 8
放射線化学療法による味覚障害、唾液分泌障害の検討	猪狩 雄一 相馬 啓子 坂田 絢子	第161回 日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会	2012. 12. 8
鼻腔腫瘍を疑われた鼻内異物の一例	三浦 康士郎 相馬 啓子 坂田 絢子	第162回 日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会	2013. 3. 23
気管切開後に創部壊死をおこした1例	坂田 絢子 荒木 康智 三浦 康士郎	第49回 慶浜耳鼻科研究会	2012. 6. 12
気管切開後のトラブル②	三浦 康士郎 坂田 絢子 重富 征爾	第50回 慶浜耳鼻科研究会	2012. 9. 11
両側顔面神経麻痺を主訴とした facial diplegia with paresthesia (Guillain-Barre Syndrome Ⅱ型) の一例	坂田 絢子 相馬 啓子 重富 征爾	第52回 慶浜耳鼻科研究会	2013. 3. 12
よくわかる嚥下の仕組み	相馬 啓子	第1回 川崎南部地区摂食嚥下・栄養研究会	2012. 11. 1
放射線治療における味覚障害、唾液分泌障害の検討	猪狩 雄一	学術講演会	2012. 11. 10
突発発症した難治性平衡障害の1例	猪狩 雄一 相馬 啓子 坂田 絢子	第10回 慶應耳鼻咽喉科臨床懇話会	2013. 1. 19
ファンビームコリメータ画像とコリメータ開口補正画像の比較	小林 水紀 小野 欽也 大森 佳昭 小切 孝洋	日本核医学学術大会	2012. 10
当院における前立腺癌に対するIMRTの初期経験	田中 智樹 栗林 徹 金田 朋也	神奈川県放射線科医会第53回例会	2012. 10.

演 題	演 者	学 会	発表年月
他院PET画像を放射線治療に利用して	三 嶽 秀 介 池 本 孝 司 田 中 秀 夫 小 切 孝 洋 栗 林 徹 金 田 朋 也	第352回神奈川核医学研究会	2012. 6. 13
ペースメーカ植込み患者に対して放線治療を行った一症例	三 嶽 秀 介 佐 藤 武 志 金 田 朋 也 栗 林 徹 池 本 孝 司 田 中 秀 夫 秋 山 剛 瀧 川 美 穂 高 村 安 枝 中 尾 一 俊 高 森 修 平 山 口 和 也 根 津 竹 哉 今 井 恵 里 山 下 絵 子 相 馬 啓 子 荒 木 康 智 猪 狩 雄 一 富 永 健 裕 李 慧 崇 田 熊 清 継 伊 藤 壯 一 森 田 慶 久 松 尾 可 奈 子	第51回全国自治体病院学会	2012. 11. 8
Superficial lumps in children and young adults: not always a benign entity	佐 藤 宏 朗 山 本 あ ゆ み 成 松 芳 明	日本医学放射線学会総会	2012. 04. 11-14
Usefulness of Endovascular Intervention for Transposed Brachio-Basilic Arteriovenous Fistula Failure	Tsukada J Narimatsu Y Sato H Shibutani S	APCCVIR 2012, JSIR&ISIR	2012. 05
発熱と肝脾病変を呈した猫引っかき病の一例	高 谷 あ ゆ み 佐 藤 宏 朗 成 松 芳 明 檜 林 敦 安 蔵 慎	日本小児放射線学会	2013. 06
コスト削減と患者満足度の向上を目指した麻酔方法の創案—手術部門システムと文献、薬物動態モデルから—	高 山 涉 駒 井 美 砂 宮 下 佳 子 永 井 美 江 小 沢 治 子 増 田 純 一	日本麻酔科学会第59回学術集会（神戸）	2012. 6. 7
サドルブロック施行時に生じる副交感神経反射の検討～起しやすい因子につ	上 田 恵 理 子 増 田 純 一	日本麻酔科学会第59回学術集会（神戸）	2012. 6. 8

演 題	演 者	学 会	発表年月
いて、また座位を3分間保持できなかつた場合に、麻酔効果は十分か、日帰りは可能か？	木 村 友 野 口 純 一 金 子 伸 一 増 田 祐 也		
Stroke volume variationを指標にした食道癌根治術の術中輸液管理	徳 永 茉 実 鈴 木 武 志 三 輪 桜 子 豊 永 晋 也 森 田 慶 久 日 山 敦 子	日本麻酔科学会第59回学術集会（神戸）	2012. 6. 8
Efficacy of cerebrospinal fluid drainage for delayed-onset postoperative paraplegia and paraparesis after thoracic or thoracoabdominal aortic aneurysm repair: A case series of 8 patients	Suga K Sato N Sugiura T Kamada T Mori Y	Euroanaesthesia 2012 (Paris)	2012. 6. 11
当院におけるPalliative surgeryとしての胃-空腸吻合術の成績と適応に関する検討	壁 島 康 郎 掛 札 敏 裕 増 田 純 一	第17回日本緩和医療学会学術大会（神戸）	2012. 6. 22
Nasal high flowが著効した1例	豊 永 晋 也 鈴 木 武 志 森 田 慶 久 増 田 純 一	第34回日本呼吸療法医学会学術集会（沖縄）	2012. 7. 14
挿管下人工呼吸管理からの離脱にNPPVおよびnasal high flowによる管理が有効であった一症例	若 宮 里 恵 鈴 木 武 志 増 田 祐 也 豊 永 晋 也 森 田 慶 久 増 田 純 一	日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第52回合同学術集会（軽井沢）	2012. 9. 22
デクスメトミジン鎮静下で自発呼吸下に気管内腫瘍切除術の麻酔管理を行った一例	増 田 祐 也 鈴 木 武 志 倉 住 拓 弥 豊 永 晋 也 菅 規 久 子 岡 部 久 美 子 日 山 敦 子 増 田 純 一	日本臨床麻酔学会第32回大会（郡山）	2012. 11. 1
リ्यूズドタイプバイトブロックの金属内筒が気管内異物となった一症例	駒 井 美 砂 三 輪 桜 子 豊 永 晋 也 菅 規 久 子 高 山 涉 鈴 木 武 志 増 田 祐 也 増 田 純 一	日本臨床麻酔学会第32回大会（郡山）	2012. 11. 3
クラウド型医療機器中央管理システム導入の効果	山 口 和 哉 藤 平 晃 山 下 絵 里 今 井 恵 根 津 竹 哉	第51回全国自治体病院学会（香川）	2012. 11. 8

演 題	演 者	学 会	発表年月
	高 森 修 平 中 尾 一 俊 増 田 純 一		
川崎病院ICUで採用した新しい酸素投与方法：「ネーザルハイフロー(NHF)」の紹介	高 山 涉 倉 住 拓 弥 若 宮 里 恵 増 田 香 織 岡 部 久 美 子 鈴 木 武 志 豊 永 晋 也 森 田 慶 久 一 増 田 純 一 小 澤 治 子	第51回全国自治体病院学会（香川）	2012. 11. 9
CIS-OR:情報の有効活用と医療安全・コスト連携に重点をおいた手術部門システム	高 山 涉 増 田 純 一 日 山 敦 子 森 田 慶 久 一 鈴 木 武 志 永 井 美 江 子 菅 規 久 子 豊 永 晋 也 増 田 祐 也 子 石 川 明 子	第51回全国自治体病院学会（香川）	2012. 11. 9
大腸内視鏡検査に於ける患者呼吸状態の観察の工夫	小 林 陽 一 西 野 晴 夫 高 橋 敬 二 野 沢 博 白 倉 立 也 増 田 純 一 松 島 誠	第67回日本大腸肛門病学会総会（福岡）	2012. 11. 17
全身麻酔後に呼吸不全を呈し死亡に至った筋萎縮性側索硬化症患者の一例	増 田 香 織 豊 永 晋 也 鈴 木 武 志 森 田 慶 久 一 増 田 純 一	神奈川麻酔科医会第44回学術集会（横浜）	2013. 2. 23
Nasal high flow のPEEP効果 NPPVとの比較	倉 住 拓 弥 鈴 木 武 志 若 宮 里 恵 増 田 祐 也 豊 永 晋 也 菅 規 久 子 高 山 涉 石 川 明 子 森 田 慶 久 一 増 田 純 一	第40回日本集中治療医学学術集会（松本）	2013. 3. 1
待機的腹部大動脈瘤術後に一過性に対麻痺を呈した一例	菅 規 久 子 森 庸 介 鎌 田 高 彰 高 山 涉 若 宮 里 恵	第40回日本集中治療医学会学術集会（松本）	2013. 3. 1

演 題	演 者	学 会	発表年月
	倉住 拓 弥 増田 祐 也 豊永 晋 也 鈴木 武 志 森田 慶 久		
いわゆる合法(脱法)ハーブ吸入後に救急搬送となった4症例	竹村 成 秀 権 守 智 齋 藤 豊 大城 健 一 郷内 志 朗 高橋 俊 介 伊藤 壮 一 田熊 清 継	第15回日本臨床救急医学会総会・学術集会	2012. 5
Quality of care and mortality of severe sepsis and septic shock in Japan	Fujishima S Gando S Saito D Mayumi T Kushimoto S Shiraishi S Ogura H Takuma K Kotani J Ikeda H Yamashita N Suzuki K Tsuruta R Takeyama N Araki T Suzuki Y Miki Y Aikawa N Yamaguchi Y	ATS 2012-San Francisco International Conference	2012. 5
JAAMSR多施設共同前向き調査研究 Severe sepsis感染/病原微生物の解析結果	田熊 清 継 齋 藤 大 蔵 藤島 清 太 郎 荒木 恒 敏 池田 弘 人 白石 振 一 郎 丸 藤 哲 山口 芳 裕 相川 直 樹	第40回日本救急医学会総会・学術集会	2012. 11
病院前救護における静脈路確保時の非接触型静脈可視化装置の有用性の検討	伊藤 壮 一 高橋 俊 介 郷内 志 朗 大城 健 一 齋 藤 豊 竹村 成 秀 進 藤 健 近 藤 英 樹 田熊 清 継	第40回日本救急医学会総会・学術集会	2012. 11

演 題	演 者	学 会	発表年月
当院におけるアナフィラキシー・ヒスタミン中毒症例の検討 発症時刻の面から	高橋 俊介 大城 健一 郷内 志朗 齋藤 豊 進藤 健 権守 智 竹村 成秀 近藤 英樹 春成 学 伊藤 壮一 田熊 清継	第40回日本救急医学会総会・学術集会	2012. 11
救急搬送された大腸出血症例の検討	郷内 志朗 伊藤 壮一 進藤 健 近藤 英樹 権守 智 竹村 成秀 齋藤 豊 大城 健一 高橋 俊介 多村 知剛 土井 賢治	第40回日本救急医学会総会・学術集会	2012. 11
救急科主導による初期研修医オリエンテーションの試み 初期研修医ニーズ評価に基づいた救急医学への導入プログラム	大城 健一 伊藤 壮一 春成 学 近藤 英樹 進藤 健 竹村 成秀 権守 智 齋藤 豊 郷内 志朗 高橋 俊介 田熊 清継	第40回日本救急医学会総会・学術集会	2012. 11
院内救急体制構築のための院内死亡症例の検討	齋藤 豊 大城 健一 春成 学 進藤 健 近藤 英樹 権守 智 竹村 成秀 郷内 志朗 高橋 俊介 伊藤 壮一 田熊 清継	第40回日本救急医学会総会・学術集会	2012. 11
上部消化管出血に対するGlasgow-Blatchford bleeding scoreの有用性の検討	竹村 成秀 権守 智 近藤 英樹 進藤 健 齋藤 豊 郷内 志朗	第40回日本救急医学会総会・学術集会	2012. 11

演 題	演 者	学 会	発表年月
	大城 健一 高橋 俊介 伊藤 壮一 田熊 清		
救急外来(ER)を受診し異物誤飲と診断された症例の検討	権 守 智 進 藤 健 近 藤 英樹 竹 村 成秀 齋 藤 豊 大城 健一 郷 内 志朗 高橋 俊介 伊藤 壮一 田熊 清	第40回日本救急医学会総会・学術集会	2012. 11
乳幼児心肺停止症例の検討	近 藤 英樹 進 藤 健 竹 村 成秀 権 守 智 齋 藤 豊 郷 内 志朗 高橋 俊介 大城 健一 伊藤 壮一 田熊 清	第40回日本救急医学会総会・学術集会	2012. 11
当院に救急搬送された生活保護受給者の特徴	進 藤 健 近 藤 英樹 権 守 智 竹 村 成秀 齋 藤 豊 高橋 俊介 郷 内 志朗 大城 健一 伊藤 壮一 田熊 清	第40回日本救急医学会総会・学術集会	2012. 11
ERを受診したアメリカンフットボール(アメフト) 関連外傷の検討	春 成 学 近 藤 英樹 権 守 智 進 藤 健 竹 村 成秀 齋 藤 豊 大城 健一 郷 内 志朗 高橋 俊介 伊藤 壮一 田熊 清	第40回日本救急医学会総会・学術集会	2012. 11
外因性小児救急症例におけるER医の意義 かわさきERでの後方視的検討	土 井 賢治 伊藤 壮一 郷 内 志朗 高橋 俊介 大城 健一	第40回日本救急医学会総会・学術集会	2012. 11

演 題	演 者	学 会	発表年月
	齋藤 豊 竹村 成 権守 智 進藤 健 近藤 英樹 多村 知剛		
川崎市立川崎病院ERでの緊急外科的気道確保についての検討	金尾 邦生 伊藤 壮一 高橋 俊介 郷内 志朗 大城 健一 齋藤 豊 近藤 英樹 進藤 健 竹村 成秀 田熊 清継	第40回日本救急医学会総会・学術集会	2012. 11
飲酒を契機に救急搬送される患者の特徴	多村 知剛 鈴木 昌 田熊 清継 堀 進 悟	第40回日本救急医学会総会・学術集会	2012. 11
日本救急医学会Sepsis Registry特別委員会報告	丸藤 哲 齋藤 大蔵 藤島 清太郎 真弓 俊彦 小倉 裕司 荒木 恒敏 池田 弘人 久志本 成樹 小谷 穰治 白石 振一郎 鈴木 幸一郎 鈴木 泰 武山 直志 田熊 清継 鶴田 良介 三木 靖雄 山下 典雄 山口 芳裕 相川 直樹	第40回日本救急医学会総会・学術集会	2012. 11
敗血症患者におけるBody Mass Index(BMI)の影響 日本救急医学会Sepsis Registry 535例の解析	山下 典雄 相川 直樹 丸藤 哲 山口 芳裕 齋藤 大蔵 荒木 恒敏 池田 弘人 小倉 裕司 久志本 成樹 小谷 穰治 白石 振一郎	第40回日本救急医学会総会・学術集会	2012. 11

演 題	演 者	学 会	発表年月
	鈴木 幸一郎 鈴木 泰 田熊 清継 武山 直志 樽井 武彦 鶴田 良介 藤島 清太郎 真弓 俊彦 三木 靖雄 (日本救急医学 会Sepsis Reg- istry特別委員 会)		
敗血症患者における血液・巣培養結果と重症度の関係についての検討 日本救急医学会Sepsis Registry 527例の解析	白石 振一郎 丸 藤 哲 田熊 清継 荒木 恒敏 池田 弘人 齋藤 大蔵 藤島 清太郎 小倉 裕司 久志本 成樹 小谷 穰治 鈴木 幸一郎 鈴木 泰 武山 直志 鶴田 良介 真弓 俊彦 三木 靖雄 山下 典雄 山口 芳裕 相川 直樹	第40回日本救急医学会総会・学術集会	2012. 11
ABLS特別委員会報告	織 田 順 佐々木 淳一 春成 伸之 田熊 清継 鳴海 篤志 武田 多一 齋藤 大蔵 田中 秀治 塩 野 茂 (日本熱傷学会 ABLS特別委員 会)	第38回熱傷学会総会・学術集会	2012. 6
熱傷レジストリー	猪口 貞樹 樋口 良平 楠本 健司 安田 浩 上山 昌史 池田 弘人	第38回熱傷学会総会・学術集会	2012. 6

演 題	演 者	学 会	発表年月
	齋藤 大蔵 松村 一 田熊 清継 (日本熱傷学会 学術委員会)		
本邦におけるABLS (advanced burn life support)普及と需要の実際 評議員アンケート結果の分析より	佐々木 淳一 織田 順 齋藤 大蔵 田熊 清継 武田 多一 田中 秀治 鳴海 篤志 春成 伸之 塩野 茂 (日本熱傷学会 ABLS特別委員 会)	第38回熱傷学会総会・学術集会	2012.6
日本熱傷学会「熱傷入院患者レジストリー」の現状	猪口 貞樹 池田 弘人 上山 昌史 楠本 健司 齋藤 大蔵 田熊 清継 樋口 良平 松村 一 安田 浩 (日本熱傷学会 学術委員会)	第38回熱傷学会総会・学術集会	2012.6
重症敗血症の集中治療はどうあるべきか 重症敗血症の集中治療 日本救急医学会sepsis registry解析結果からの展望	小倉 裕司 丸藤 哲 齋藤 大蔵 武山 直志 久志本 成樹 藤島 清太郎 真弓 俊彦 荒木 恒敏 池田 弘人 小谷 穰治 白石 振一郎 鈴木 幸一郎 鈴木 泰 田熊 清継 鶴田 良介 三木 靖雄 山口 芳裕 山下 典雄 相川 直樹 (日本救急医学 会sepsis reg- istry特別委員 会)	第40回日本集中治療医学会学術集会	2013.2

演題	演者	学会	発表年月
refeeding症候群とリハビリテーション	村岡 香織 伊藤 真梨	第29回リハビリテーション医療懇話会	2012. 7
二期的人工股関節再置換術実施後、歩行獲得に難渋した一症例	宿田 友子 村岡 香織 大久保 匡子 菅野 詩子 佐藤 栄司	第30回神奈川県理学療法士学会	2013. 3
Difference of cortical activation pattern during motor execution and motor imagery assessed with simultaneous near-infrared spectroscopy (NIRS) and electroencephalography (EEG) in patients with stroke.	Ito M Ota N Shindo K Ushiba J Liu M	第3回アジアオセアニア物理リハビリテーション医学会議	2012. 5
回復期脳卒中患者における運動時および運動イメージ時の脳波・脳血流変化	伊藤 真梨 太田 直樹 新藤 恵一郎 阿部 玲音 堀田 富士子 里 宇明元	第49回日本リハビリテーション医学会学術集会	2012. 5
Cortical Activation Pattern in Patients with stroke:A Cross-Sectional Study with simultaneous Near-Infrared Spectroscopy (NIRS) and Electroencephalography (EEG)	Ito M Ota N Shindo K Ushiba J Liu M	第2回アジア太平洋脳卒中会議	2012. 9
FACSを用いたヒト歯髄幹細胞の予期的分離法	安居 孝純 馬 潤洋 鬼澤 勝弘 中川 種昭 岡野 栄之 松崎 有未	第11回日本再生医療学会総会(横浜)	2012. 6. 12-14
FACSを用いたヒト歯髄幹細胞の予期的分離法	安居 孝純 鬼澤 勝弘 軽部 健史 森川 暁 河奈 裕正 中川 種昭	第57回日本口腔外科学会総会(横浜)	2012. 10. 19-21
上顎洞隔壁の解剖学的構造についての分析 200例400側の評価	軽部 健史 岩崎 良太郎 蒔生田 整治 臼田 慎 安居 孝純 鬼澤 勝弘 中川 種昭 河奈 裕正	第57回日本口腔外科学会総会(横浜)	2012. 10. 19-21
Prospective isolation of human dental pulp stem cells	Yasui T Mabuchi Y Toriumi H Araki D Niibe K Morikawa S	91st General Session & Exhibition of the International Association of Dental Research, Seattle	2013. 3. 20-23

演 題	演 者	学 会	発表年月
	Karube T Oizawa K Kawana H Tomita Y Suzuki N Nakagawa T Okano H Matsuzaki Y		
直腸筋膜(rectal fascia)を重視したより安全な腹腔鏡下直腸切除術	壁 島 康 郎 掛 札 敏 裕 杉 浦 仁	第112回日本外科学会定期学術集会	2012. 4. 13
小児原因不明劇症肝不全例における病理組織学的検討	入 江 理 恵 中 澤 温 子 山 田 健 二 中 野 夏 子 大 喜 多 肇 松 岡 健 太 郎	第101回日本病理学会総会	2012. 4. 27
不明熱で発症した神経芽腫の12歳女児例	垣 本 操 男 山 本 あ ゆ み 佐 藤 宏 朗 成 松 芳 明	第37回日本超音波学会学術集会	2012. 6. 2
関節超音波による関節リウマチの臨床的疾患活動性の評価	金 家 明 美 相 馬 響 子 大 庭 優 希 垣 本 操 男 田 口 博 章	第37回日本超音波学会学術集会	2012. 6. 2
小児特発性劇症肝不全例の病態に関する検討	入 江 理 恵 中 澤 温 子 山 田 健 二 中 野 夏 子 大 喜 多 肇 松 岡 健 太 郎 福 田 晃 也 阪 本 靖 介 笠 原 群 生	第30回日本肝移植研究会	2012. 6. 14
咽喉頭表在癌スクリーニング検査の工夫—新たな喉頭展開法—	中 村 理 恵 子	第84回日本消化器内視鏡学会総会	2012. 10. 11
	大 森 泰 高 橋 常 浩 和 田 則 仁 川 久 保 博 文 竹 内 裕 也 才 川 義 朗 小 柳 和 夫 横 山 顕 杉 浦 仁 向 井 萬 起 男 北 川 雄 光		
高度多発咽喉頭表在癌の検討	小 倉 正 治 大 森 泰 川 久 保 博 文	第84回日本消化器内視鏡学会総会	2012. 10. 11

演 題	演 者	学 会	発表年月
	中村 理恵子 竹内 裕也 高橋 常浩 和田 則仁 才川 義朗 北川 雄光 小柳 和夫 杉浦 仁		
食道表在癌に対するEMR/ESDの長期予後	川久保 博文 大森 泰 小柳 和夫 杉浦 仁 横山 顕 竹内 裕也 北川 雄光	第84回日本消化器内視鏡学会総会	2012. 10. 11
消化管GIST切除後再発症例からみた補助化学療法適応の妥当性	小柳 和夫 平岩 訓彦 田 潤 悟 壁島 康郎 小野 滋司 入江 理恵 杉浦 仁 掛札 敏裕	第10回日本消化器外科学会大会	2012. 10. 13
リファレンス抗Dコントロールキットの実技研修での使用経験	兵藤 理 村松 里充 三津田 太郎 倉田 由美子 山崎 郁子 桑原 朋和 天野 みい奈 脇田 妙子	第1回日本臨床衛生検査技師会首都圏支部医学検査学会	2012. 11. 4
大学病院研修の経験を生かした脳波検査の精度向上への取り組み	山崎 麻未 安部 さやか 水流 育江 金家 明美 守屋 久子 小野澤 裕也 野崎 博之	第51回全国自治体病院学会	2012. 11. 8
難治性下痢患者に対するNSTでのベリチーム配合顆粒の処方提案	湧井 宣行 内海 俊一 三井 みゆき 矢野 裕一	第22回日本医療薬学会年会	2012. 10. 28
メロペネムの使用実態調査と個別投与設計に関する検討	大室 綾 小林 岳 早川 和宏 矢野 裕一 坂本 光男	第22回日本医療薬学会年会	2012. 10. 28
NST介入による慢性腎不全患者に対する適切な栄養管理の施行	内海 俊一 湧井 宣行 三井 みゆき	第22回日本医療薬学会年会	2012. 10. 28

演 題	演 者	学 会	発表年月
	矢野 裕一		
研修会への企画参加を通じた地域連携への試みと今後の検討	亀山 亜希夫 神奈川県糖尿病療養指導研究会	第55回日本糖尿病学会ポスターセッション	2012. 5. 17-19
NST加算算定から1年間の活動報告	長澤 恵梨子	第51回全国自治体病院学会	2012. 11. 9
診断・治療に苦慮した若年子宮腺筋腫症の1例—GnRHa投与後のLNG-IUS使用について—	藪野 彰 浅井 哲 林 保良 原田 佳奈 鈴木 毅 安達 将隆 黒田 恵子 金 善恵 樋口 隆幸 村越 行高 染谷 健一 岩田 壮吉 中田 さくら 宮本 尚彦	第33回日本エンドメトリーオース学会	2012. 1. 21
卵子ミトコンドリアDNA copy数と妊孕性との関係	村越 行高 末岡 浩 五十畑 葵 泉 陽子 高橋 香織 佐藤 卓 櫻井 友義 田島 博人 佐藤 健二 中林 章 谷垣 礼子 久慈 直昭 吉村 泰典	第145回日本生殖医学会関東地方分会	2012. 3. 3
子宮動脈塞栓術後に子宮温存可能であった胎盤ポリープの2例	安達 将隆 藪野 彰 浅井 哲 林 保良 原田 佳奈 鈴木 毅 黒田 恵子 樋口 隆幸 村越 行高 染谷 健一 岩田 壮吉 長谷川 市朗 成松 芳明	第30回神奈川産婦人科内視鏡研究会	2012. 3. 7
腹腔鏡手術、帝王切開術を経て発症した腹壁瘢痕部子宮内膜症の1例	安達 将隆 藪野 彰 浅井 哲 林 保良 原田 佳奈	第397回 神奈川産科婦人科学会 学術講演会	2012. 3. 10

演 題	演 者	学 会	発表年月
	鈴木 毅 黒田 恵子 樋口 隆幸 村越 行高 染谷 健一 岩田 壮吉 金 善恵		
胎児超音波検査によって診断された左上大静脈遺残の一例	安達 将隆 藪野 彰 浅井 哲 林 保良 原田 佳奈 鈴木 毅 黒田 恵子 樋口 隆幸 村越 行高 染谷 健一 岩田 壮吉 金 善恵	第397回 神奈川産科婦人科学会 学術講演会	2012. 3. 10
脱毛症・多毛症を契機に卵巣セトリ・ライゲイト細胞腫と診断した1例	安達 将隆 藪野 彰 浅井 哲 林 保良 原田 佳奈 鈴木 毅 黒田 恵子 樋口 隆幸 村越 行高 染谷 健一 岩田 壮吉 倉崎 康太郎	第397回 神奈川産科婦人科学会 学術講演会	
羊水中の成長分化因子Midkineは胎児由来シグナルとして妊娠維持に関与する	浅井 哲 樋口 隆幸 岩田 壮吉 石本 人 西村 修 近藤 朱音 金 善恵 松本 直 峰岸 一宏 宮越 敬 田中 守 吉村 泰典	第64回 日本産科婦人科学会学術講演会	2012. 4. 13
悪性腫瘍との鑑別に苦慮し、腹腔鏡下生検にて診断し得た若年性子宮腺筋症の1例	安達 将隆 藪野 彰 浅井 哲 林 保良 原田 佳奈 鈴木 毅 黒田 恵子 樋口 隆幸	第123回 関東連合産科婦人科学会学術集会	2012. 6. 17

演 題	演 者	学 会	発表年月
	村越 行 高 染谷 健 一 岩田 壮 吉 金 善 惠		
母体救命が可能だった妊娠22週の劇症A型連鎖球菌感染症の1例	藪野 彰 浅井 哲 林 保良 槁之浦 佳奈 樋口 隆幸 村越 行高 染谷 健一 岩田 壮吉 金 善惠 飯田 美穂	第398回 神奈川県産科婦人科学会 学術講演会	2012. 7. 7
当院における妊娠合併卵巣嚢腫に対する腹腔鏡下手術の検討	藪野 彰 浅井 哲 林 保良 槁之浦 佳奈 樋口 隆幸 村越 行高 染谷 健一 岩田 壮吉 金 善惠 飯田 美穂 鈴木 毅 飯田 美穂	第398回 神奈川県産科婦人科学会 学術講演会	2012. 7. 7
巨大子宮筋腫に対するTLHの工夫	藪野 彰 浅井 哲 林 保良 槁之浦 佳奈 樋口 隆幸 村越 行高 染谷 健一 岩田 壮吉 金 善惠 飯田 美穂 鈴木 毅	第398回 神奈川県産科婦人科学会 学術講演会	2012. 7. 7
Needlescopic SurgeryとのcombinationによるTLH～より安全、容易なMinimal Invasive Surgery	藪野 彰 浅井 哲 林 保良 槁之浦 佳奈 樋口 隆幸 村越 行高 染谷 健一 岩田 壮吉 金 善惠 飯田 美穂 鈴木 毅	第398回 神奈川県産科婦人科学会 学術講演会	2012. 7. 7
加齢女性の卵子に生じるミトコンドリアDNAの動態に関する検討	村越 行 高 末岡 浩 五十畑 葵	第30回日本受精着床学会学術講演会	2012. 8. 30

演 題	演 者	学 会	発表年月
	泉 陽 子 高 橋 香 織 佐 藤 卓 人 田 島 博 人 佐 藤 健 二 吉 村 泰 典		
false passageに子宮操作器具先端が遺残した一例	浅 井 哲	第52回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	2012. 9. 13
モルセレーターを使用し摘出したRetroperitoneal solitary fibrous tumorの1例	藪 野 彰 浅 井 哲 林 保 良 嶋 之 浦 佳 奈 樋 口 隆 幸 村 越 行 高 染 谷 健 一 岩 田 壮 吉 金 善 惠 飯 田 美 穂 鈴 木 毅	第52回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	2012. 9. 13
全腹腔鏡下子宮全摘術におけるNeedlescopic Surgery—より容易な、より安全な、Reduced port Surgeryを目指して—	藪 野 彰 浅 井 哲 浅 田 弘 法 宮 本 尚 彦 吉 村 泰 典	第52回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	2012. 9. 13
産婦人科専攻医が施行する全腹腔鏡下子宮全摘術—技術的側面と教育的側面—	藪 野 彰 浅 井 哲 林 保 良 嶋 之 浦 佳 奈 樋 口 隆 幸 村 越 行 高 染 谷 健 一 岩 田 壮 吉 金 善 惠 飯 田 美 穂 鈴 木 毅 中 田 さ く ら 宮 本 尚 彦	第52回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	2012. 9. 14
TANKO plus one puncture—卵巣囊腫摘出の標準術式を目指して—	藪 野 彰 浅 井 哲 浅 田 弘 法 宮 本 尚 彦 吉 村 泰 典	第52回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	2012. 9. 14
除去困難子宮内避妊器具（IUD）の外來処置法	藪 野 彰 浅 井 哲 林 保 良 嶋 之 浦 佳 奈 樋 口 隆 幸 村 越 行 高 染 谷 健 一 岩 田 壮 吉 金 善 惠	第52回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	2012. 9. 14

演 題	演 者	学 会	発表年月
	飯 田 美 穂 鈴 木 毅 中 田 さ く ら 宮 本 尚 彦		
TANKO plus one puncture ーより小さなプラットフォームを用いて施行した付属器・卵管切除術についてー	藪 野 彰 浅 井 哲 浅 田 弘 法 宮 本 尚 彦 吉 村 泰 典	第52回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	2012. 9. 14
診断用ヒステロファイバースコープにも使用可能な子宮内膜ポリープスネアシステムの開発と臨床応用ー第2報ー	藪 野 彰 浅 井 哲 林 保 良 槁 之 浦 佳 奈 樋 口 隆 幸 村 越 行 高 染 谷 健 一 岩 田 壮 吉 金 善 惠 飯 田 美 穂 鈴 木 毅 中 田 さ く ら 宮 本 尚 彦	第52回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	2012. 9. 15
治療に苦慮した子宮内膜増殖症併子宮腺筋症の一例	藪 野 彰 浅 井 哲 林 保 良 槁 之 浦 佳 奈 樋 口 隆 幸 村 越 行 高 染 谷 健 一 岩 田 壮 吉 金 善 惠 飯 田 美 穂 鈴 木 毅 中 田 さ く ら 宮 本 尚 彦	第399回 神奈川産科婦人科学会 学術講演会	2012. 9. 8
再発卵巣癌で腫瘍随伴症候群を併発した一例	藪 野 彰 浅 井 哲 林 保 良 槁 之 浦 佳 奈 樋 口 隆 幸 村 越 行 高 染 谷 健 一 岩 田 壮 吉 金 善 惠 飯 田 美 穂 鈴 木 毅 中 田 さ く ら 宮 本 尚 彦 下 園 寛 子	第399回 神奈川産科婦人科学会 学術講演会	2012. 9. 8

演 題	演 者	学 会	発表年月
卵子のミトコンドリア遺伝子から解析した胚発生に関わる因子に関する検討	村越 行高 末岡 浩 五十畑 葵 泉 陽子 高橋 香織 佐藤 卓 櫻井 友義 田島 博人 佐藤 健二 中林 章 吉村 泰典	第57回 生殖医学会 学術講演会	2012. 11. 8
年齢による卵子、顆粒膜細胞の変化がミトコンドリアDNAと胚発生に及ぼす影響	村越 行高 末岡 浩 五十畑 葵 泉 陽子 高橋 香織 佐藤 卓 櫻井 友義 田島 博人 佐藤 健二 中林 章 吉村 泰典	第57回 生殖医学会 学術講演会	2012. 11. 8
Hysteroscopy and intrauterine neoplasms	Bao-Liang Lin	2012 APAGE International workshop on animal hands-on Lab. In shanghai	2012. 3. 23
Office management of retained intrauterine devices	Bao-Liang Lin	The 6th China-Australia-Asia Pacific Forum for Minimally Invasive Surgery	2012. 4. 26
Removal of Endometrial Polyps through a Small Caliber Diagnostic Flexible Hysteroscope using a Lin Polyp Snare System	Bao-Liang Lin	The 20th Symposium of Beijing • International Gynecological Endoscopy and Mini-invasive Surgery	2012. 5. 19
How to perform difficult TCR operations	Bao-Liang Lin	The First APAGE Regional Conference of Northeast China	2012. 10. 13
Office uterine polypectomy or endometrial biopsy using small caliber diagnostic flexible hysteroscope with Lin snare system	Bao-Liang Lin	2012 APAGE	2012. 11. 29
Hysteroscopic management of intrauterine lesions	Bao-Liang Lin	2012 APAGE	2012. 11. 30

9 マ ス コ ミ

演 題	演 者	放送局・新聞社	年月日
世界的規模で増加する「糖尿病」の最新情報 ー治療と予防のお話ー	津 村 和 大	雑誌取材	2012. 7
テニス肘（上腕骨外側上顆炎）	堀 内 行 雄	新潟日報	2012. 5
テニス肘（上腕骨外側上顆炎）	堀 内 行 雄	岩手日報社	2012. 5
軽視しがちな突き指	堀 内 行 雄	釧路新聞	2012. 7. 3
軽視しがちな突き指	堀 内 行 雄	十勝毎日新聞	2012. 9. 10
軽視しがちな突き指	堀 内 行 雄	苫小牧民報	2013. 1. 9
突き指	堀 内 行 雄	中国新聞	2012. 11. 28
神経圧迫で完全まひも	堀 内 行 雄	北羽新報	2012. 9. 19
神経圧迫で完全まひも	堀 内 行 雄	おおだて新報	2012. 9. 24
神経圧迫で完全まひも	堀 内 行 雄	釧路新聞	2012. 9. 8
橈骨神経圧迫でまひ	堀 内 行 雄	高知新聞	2012. 9. 21
神経圧迫で完全まひも	堀 内 行 雄	八重山毎日新聞	2012. 11. 4
飲酒後の腕枕注意	堀 内 行 雄	苫小牧民報	2012. 10. 3
神経圧迫で完全まひも	堀 内 行 雄	十勝毎日新聞	2012. 9. 3
飲酒後の腕枕注意	堀 内 行 雄	静岡新聞	2012. 9. 6
飲酒後の腕枕は危険	堀 内 行 雄	神戸新聞	2012. 10. 6
脳脊髄液減少症 対応策 医師に学ぶ	相 馬 啓 子	神奈川新聞	2012. 10. 27

10 そ の 他

氏 名	タイトル・テーマ等	関係事項	年月日
津村和大	講演座長	神奈川糖尿病デー特別企画講演会（講演座長）	2012. 11
津村和大	講演座長	川崎糖尿病懇話会第50回記念学術講演会（講演座長）	2013. 3
津村和大	講演座長	第5回神奈川県糖尿病協会食事勉強会講演（講演座長）	2013. 3
津村和大	講演座長	インクレチン学術講演会（講演座長）	2013. 3
原 智	腎癌症例紹介・討論	川崎横浜Urological Oncology Seminar	2012. 7. 25
小林水紀	サーベをやってみよう	放射線科内勉強会	2012. 11. 27
小切孝洋	日本工業規格 医用X線CT装置ー基礎安全及び基本性能：JIS Z 4751-2-44:2012	日本放射線技術学会 標準化小委員会委員としてJIS原案作成会議に出席	2012. 9. 1
三嶽秀介	日本核医学技術学会関東地方会 平成25年度 監事	日本核医学技術学会関東地方会	2012. 5
三嶽秀介	第342回神奈川核医学研究会 「症例検討会」司会	神奈川核医学研究会	2012. 6. 13
増田純一	莫留非涅の量増やせ月の今宵也	川崎市医師会会報 328号 104-105	2013. 5
野口 啓 多村知剛 大倉絵里華 塩島裕樹 金尾邦生	緊急開腹術により救命したシートベルト・ハンドル外傷の一例	第21回慶応外傷症例検討会プログラム	2012. 11

土井賢治 春成 学 権守 智 近藤英樹 進藤 健 竹村成秀 齋藤 豊 大城健一 郷内志朗 高橋俊介 伊藤壯一 田熊清継			
高橋俊介	井田病院院内BLS講習会 (6階西病棟)		2013. 1. 24
高橋俊介	井田病院院内BLS講習会 (5階東病棟)		2013. 2. 15
高橋俊介	井田病院院内BLS講習会 (4階東病棟)		2013. 2. 21
高橋俊介	井田病院院内BLS講習会 (5階西病棟)		2013. 2. 28
高橋俊介	井田病院院内ALS講習会 (ICU)		2013. 3. 1
高橋俊介	井田病院ICLS ヒルトップコース		2013. 3. 2
高橋俊介	井田病院院内BLS講習会 (6階西病棟)		2013. 3. 4
高橋俊介	井田病院院内BLS講習会 (7階西病棟)		2013. 3. 7
高橋俊介	井田病院院内BLS講習会 (手術室)		2013. 3. 11
高橋俊介	井田病院院内BLS講習会 (手術室)		2013. 3. 27
大城健一	初期研修医オリエンテーション プロ グラム策定		2012. 4. 1
大城健一	多数傷病者対応について	神奈川県警機動隊 講義	2012. 5. 11
大城健一	緊急度評価・院内急変勉強会 (救急科)		2012. 5. 17
大城健一	川崎市消防局・川崎署勉強会		2012. 5. 23
大城健一	緊急度評価・院内急変勉強会 (総合診 療科)		2012. 6. 8
大城健一	院内トリアージ勉強会 (9S)		2012. 6. 11
大城健一	緊急度評価・院内急変勉強会 (12N)		2012. 6. 12
大城健一	川崎市消防局・川崎署勉強会		2012. 6. 27
大城健一	災害時医療勉強会 (放射線科)		2012. 7. 6
大城健一	災害時医療勉強会 (看護部)		2012. 7. 11
大城健一	川崎DMAT院内出場訓練		2012. 7. 20
大城健一	川崎市消防局・川崎署勉強会		2012. 7. 30
大城健一	H24 第1回 災害時本部機能訓練・災害 時医療勉強会 (三役)		2012. 8. 1
大城健一	緊急度評価・院内急変勉強会 (放射線 科)		2012. 8. 13

大城健一	川崎市消防局・川崎署勉強会		2012. 8. 16
大城健一	災害時事務機能訓練		2012. 8. 22
大城健一	緊急度評価・院内急変勉強会（検査科）		2012. 8. 24
大城健一	災害時看護部訓練（被害状況報告訓練）		2012. 9. 11
大城健一	災害時医療勉強会（14SN）		2012. 9. 12
大城健一	災害時医療勉強会（全職員：一次トリアージ）		2012. 9. 13
大城健一	緊急度評価・院内急変勉強会（12N）		2012. 9. 18
大城健一	川崎市消防局・川崎署勉強会		2012. 9. 26
大城健一	緊急度評価・院内急変勉強会（10SN・整形外科）		2012. 10. 10
大城健一	川崎市消防局 救命士再教育研修 講義		2012. 10. 23
大城健一	川崎市消防局・川崎署勉強会		2012. 10. 25
大城健一	神奈川DMAT-L 隊員養成研修 講師		2012. 10. 26, 27
田熊清継	一般演題口演17（各論感染症1）	第40回日本救急医学研究会総会・学術集会 座長	2012. 11
大城健一	川崎DMAT 臨港署合同訓練		2012. 11. 22
大城健一	川崎DMAT 川崎署合同訓練		2012. 11. 22
大城健一	災害時医療勉強会（全職員：ロジ能力強化）		2012. 12-2013. 3
大城健一	川崎市消防局・川崎署勉強会		2012. 12. 10
大城健一	川崎市消防局・川崎署勉強会		2013. 1. 16
大城健一	川崎DMAT 隊員養成研修 プログラムディレクター		2012. 1. 31
田熊清継	感染症5	第63回救急医学会関東地方会 座長	2013. 2
大城健一	H24 第2回 災害時本部機能訓練		2013. 2. 21
大城健一	川崎市消防局 救急技術確認訓練 講師		2013. 2. 25-28
大城健一	川崎市消防局・川崎署勉強会		2013. 3. 13
守屋久子 安部さやか	マタニティフェスタ2012 日本臨床衛生検査技師会	検査体験コーナー 指尖ヘモグロビン濃度測定	2012. 4. 7
殿岡弘敏	腸管系感染症関連細菌の検査法・ 腸内細菌の薬剤耐性菌検査	神奈川県臨床衛生検査技師会 微生物研究班実技講習会 講義兼実技講師	2012. 7. 21-22
安部さやか	「血糖値のあれこれ」	第2回川崎病院糖尿病市民講座	2012. 10. 27
小林 岳	座長：保険薬局版バランスト・スコア カード	日本経済大学公開セミナー2012 保険薬局経営コース 第4回	2012. 10. 17
小林 岳	戦略マップ作成のポイント	神奈川県病院薬剤師会 バラン スト・スコアカードセミナー第2 部	2013. 1. 19
大室 綾	薬剤部のお仕事	放射線科・検査科交流勉強会	2013. 1. 30
中島由紀子 坂本光男	HIV感染症 診断と治療のポイント Vol. 3 HIV感染症（無症候性キャリア）	アボットジャパン株式会社（東 京）	2012
坂本光男 中島由紀子	HIV感染症 診断と治療のポイント Vol. 4 HIV感染症の検査は、どんな時 に行うべきか	アボットジャパン株式会社（東 京）	2012

駒場瑠美子	第1回日本感染管理ネットワーク学術集会	プログラム委員長	2012. 5. 18-19
駒場瑠美子	一般演題（ポスター）環境整備	第28回日本環境感染学会総会座長	2013. 31
駒場瑠美子	MDR P 調査対策委員会	国立病院機構横浜医療センター外部委員	2012. 9. 20
駒場瑠美子	実践する、実践できるサーベイランス	日本感染管理ネットワーク教育セミナー 司会	2012. 9. 8
駒場瑠美子	ノロウイルスアウトブレイク	KAWASAKI 感染制御協議会 演者	2013. 3. 15
金澤美穂	お食事クイズ	糖尿病市民公開講座	2012. 7. 28
金澤美穂	元気な体は食事から	糖尿病市民公開講座	2012. 10. 27

11 追補（病院年報47号に載せられなかった平成23年度業績）

4 著書

著者	タイトル	書名、(著者)、編者	発行所	頁	発表年月
森田 晃造 堀内 行雄	④肘関節前方アプローチ	肘関節外科の要点と盲点	文光堂	22-28	2011. 5
森田 晃造 堀内 行雄	5 手関節・手部の外傷	整形外科 治療と手術の合併症 起こさない対策・起きたときの対応	金原出版株式会社	273-276	2011. 4

5 刊行論文

著者	論文名	掲載誌			刊行年月
		誌名	巻(号)	頁	
Ochi K Horiuchi Y Nakamichi N Morita K Okada E	Association between the Elbow Flexion Test and Extraneural Pressure inside the Cubital Tunnel	J Hand Surg Am	36(2)	216-221	2011
Ochi K Horiuchi Y Tanabe A Morita K Takeda K Ninomiya K	Comparison of shoulder internal rotation test with the elbow flexion test in the diagnosis of cubital tunnel syndrome.	J Hand Surg Am	36A (5)	782-787	2011. 5
越智 健介 堀内 行雄	複合性局所疼痛症候群 (CRPS)	脊椎脊髄ジャーナル	24(5)	550-556	2011. 5
Ochi K Horiuchi Y Seki M Nishi K Nozaki H Yake H	Polyarthritits and posterior interosseous nerve palsy with gastric carcinoma	Rheumatol Int			published on line
Ochi K Horiuchi Y Matumura T Nakamura M	Distal radius fracture after Sauve-Kapandji procedure in a rheumatoid arthritis patient	Mod Rheumatol		290-294	2012

著者	論文名	掲載誌			刊行年月
		誌名	巻(号)	頁	
Takei T Yabe H					
堀内行雄	トピックス 複合性局所疼痛症候群 (CRPS)	CLINICIAN	58(604)	124-130	2011. 12. 1
森田晃造 堀内行雄 中道憲明 越智健介	上腕骨遠位端骨折に対するLCP Distal Humerus Plateの使用経験	日本肘関節学会雑誌	18(2)	121-123	2011. 11
森田 亘 森田晃造 越智健介 中道憲明 堀内行雄	成人の上腕骨内側上顆単独骨折の1例	日本肘関節学会雑誌	18(2)	97-99	2011. 11
森田晃造 堀内行雄 岩部昌平	橈骨遠位端骨折関節内骨折に対するpolyaxial lockin plateの使用経験	骨折	33(4)	769-772	2011. 12. 25
越智健介 堀内行雄 森田晃造 中道憲明 小柳貴裕 野崎博之	肘部管症候群患者における尺骨神経の伸張度－神経剥離術の効果－	Peripheral Nerve末梢神経	22(2)	202-203	2011
越智健介 堀内行雄 森田晃造 中道憲明 小柳貴裕 野崎博之	長母指伸筋腱を切離しない母指伸展機能再建術の試み	Peripheral Nerve末梢神経	22(2)	179-182	2011
Ochi K Horiuchi Y Tazaki K Takayama S Matsumura T	Fascicular constrictions in Patients with spontaneous palsy of the anterior interosseous nerve and the posterior interosseous nerve.	J Plast Surg Hand Surg	46	19-24	2012
Ochi K Horiuchi Y Tanabe A Waseda K Kaneko Y Koyanagi T	Shoulder internal rotation elbow flexion test for diagnosing cubital tunnel syndrome.	J Shoulder Elbow Surg	21(6)	777-781	2012
Ochi K Horiuchi Y Morisue H Harato K Tanikawa H Okubo M	Association between the disease severity and extraneural pressure induced by maximum elbow flexion in cubital tunnel syndrome patients	J Plast Surg Hand Surg	in press		
森田晃造 越智健介 岩部昌平 堀内行雄	橈骨遠位端骨折に対する掌側ロッキングプレート固定術後抜釘時所見の検討－合併症回避のために－	日手会誌	28(6)	J-02000071	2012

著者	論文名	掲載誌			刊行年月
		誌名	巻(号)	頁	
堀内行雄	複合性局所疼痛症候群 (CRPS) の診断と治療のポイント	整形外科			2012
森田晃造 堀内行雄 岩部昌平 山中一良	橈骨遠位端骨折手術における合併症の検討ー創外固定法・掌側ロッキングプレート法においてー	骨折	投稿中		
森田 亘 森田晃造 越智健介 中道憲明 田崎 篤 堀内行雄 星川吉光	腕相撲により生じた上腕二頭筋腱遠位部断裂の1例	日本整形外科学会スポーツ医学会雑誌	投稿中		
森田晃造	シエーマで見る骨・関節疾患「手」	臨床画像	28(5)		

6 講演

演題	演者	学会	発表年月
100歳までがんばる人にロコモ体操のすすめ	堀内行雄	川崎市商工会議所 (川崎)	2011. 5. 27
CRPSの診断と治療	堀内行雄	宮城県整形外科勤務医会学術講演会 (仙台)	2011. 7. 30
スポーツと健康 整形外科疾患を中心に	堀内行雄	平成23年度川崎市医師会健康スポーツ医学講座 (川崎)	2011. 11. 19
川崎市立川崎病院における抗菌薬適正使用への取り組み	小林 岳	第3回川崎ICTカンファレンス	2011. 7. 7

7 シンポジウム

演題	演者	学会	発表年月
重度母指形成不全に対する母指温存治療の治療成績と意義	高山 真一郎 関 敦 仁 高木 岳彦 宮崎 馨 堀内 行雄 伊藤 恵康 中村 俊康 矢部 裕	第84回日本整形外科学会学術総会 (Web)	2011. 5. 12-5. 15
Analysis of complications with volar locking plates for distal radius fractures	Morita K	IBRA science symposium "All around the Radius" (St. Gallen, Switzerland)	2011. 11. 5

8 学 会 発 表

演 題	演 者	学 会	発表年月
Stage3,4のキーンバック病に対する骨釘移植術－手術後5年以上経過例の中期成績－	池 上 博 康 堀 内 行 雄 中 村 俊 康 佐 藤 和 毅 戸 山 芳 昭	第54回日本手外科学会学術集会 (Web)	2011. 4. 15-16
橈骨遠位端骨折に対する掌側ロッキングプレート固定術後抜釘時所見の検討－合併症回避のために－	森 田 晃 造 越 智 健 介 中 道 憲 明 岩 部 昌 平 堀 内 行 雄	第54回日本手外科学会学術集会 (Web)	2011. 4. 15-16
関節リウマチの手指伸筋腱皮下断裂の治療－手術後10年以上経過した例での検討－	池 上 博 康 石 黒 隆 堀 内 行 雄 高 山 真 一 郎 戸 山 芳 昭	第54回日本手外科学会学術集会 (Web)	2011. 4. 15-16
特発性前骨間神経麻痺の外科的治療経験－小皮切と通常皮切との比較－	越 智 健 介 堀 内 行 雄 田 崎 憲 一 高 山 真 一 郎 森 田 晃 造	第54回日本手外科学会学術集会 (Web)	2011. 4. 15-16
K-NOW、その理由と問題点	関 敦 仁 池 上 博 康 堀 内 行 雄 高 山 真 一 郎 中 村 俊 康 丹 治 敦 桃 原 茂 樹	第84回日本整形外科学会学術総会 (Web)	2011. 5. 12-5. 15
特発性後骨間神経麻痺39例に対する外科的治療成績	越 智 健 介 堀 内 行 雄 田 崎 憲 一 松 村 崇 史 森 田 晃 造 中 道 憲 明	第84回日本整形外科学会学術総会 (Web)	2011. 5. 12-5. 15
末梢神経損傷診断における脱神経筋MRIの有用性	山 部 英 行 中 村 俊 康 堀 内 行 雄 戸 山 芳 昭 池 上 博 康	第84回日本整形外科学会学術総会 (Web)	2011. 5. 12-5. 15
関節リウマチの手指伸筋腱皮下断裂の治療－手術後10年以上経過した例での検討－	池 上 博 康 石 黒 隆 堀 内 行 雄 高 山 真 一 郎 戸 山 芳 昭	第84回日本整形外科学会学術総会 (Web)	2011. 5. 12-5. 15
橈骨遠位端骨折に対する掌側ロッキングプレート固定術後抜釘時所見の検討－合併症回避のために－	森 田 晃 造 堀 内 行 雄 小 柳 貴 裕 中 道 憲 明 越 智 健 介	第84回日本整形外科学会学術総会 (Web)	2011. 5. 12-5. 15

演 題	演 者	学 会	発表年月
Clinical results of palmar plating for Distal Radius intra-articular Fractures with Polyaxial Locking Plate	Morita K Morita W Ochi K Horiuchi Y	The 12 th EFORT Congress meeting (Copenhagen Denmark)	2011. 6. 1
橈骨遠位端骨折手術における合併症と対策—創外固定法・掌側ロッキングプレート法において—	森 田 晃 造 堀 内 行 雄 山 中 一 良 岩 部 昌 平	第37回日本骨折治療学会 (横浜)	2011. 7. 1
関節リウマチの手指伸筋腱皮下断裂の治療—手術後10年以上経過した例での検討—	池 上 博 康 石 黒 隆 堀 内 行 雄 中 村 俊 康 佐 藤 和 毅 戸 山 芳 昭	第55回日本リウマチ学会総会(神戸)	2011. 7. 17-20
リウマチ性手指関節炎に対するAvantaシリコン製人工関節の治療成績	森 田 晃 造 越 智 健 介 堀 内 行 雄	第55回日本リウマチ学会総会(神戸)	2011. 7. 17-20
SAPHO症候群における治療法の検討	矢 部 寛 樹 森 口 正 人 桜 井 正 堤 智 美 小 田 彩 矢 吹 拓 大 島 久 二 越 智 健 介 小 柳 貴 裕 堀 内 行 雄 寺 井 千 尋	第55回日本リウマチ学会総会(神戸)	2011. 7. 17-20
肘部管症候群患者における尺骨神経の伸張度変化—神経剥離術の効果—	越 智 健 介 堀 内 行 雄 森 田 晃 造 中 道 憲 明	第22回日本末梢神経学会 (那覇)	2011. 9. 2-3
長母指伸筋腱を切離しない母指伸展機能再建術の試み	越 智 健 介 堀 内 行 雄 森 田 晃 造 中 道 憲 明 野 崎 博 之	第22回日本末梢神経学会 (那覇)	2011. 9. 2-3
腕相撲により生じた上腕二頭筋腱遠位部断裂の1例	森 田 亘 森 田 晃 造 越 智 健 介 堀 内 行 雄	第37回日本整形外科スポーツ医学会 学術集会 (福岡)	2011. 9. 23
末節骨背側脱臼骨折に対してワイヤーを用いた骨片の締結固定術を施行した1例	森 重 雄 太 郎 越 智 健 介 森 田 晃 造 中 道 憲 明 金 子 陽 介 大 久 保 匡 谷 川 英 徳 金 子 康 仁 原 藤 健 吾	第17回神奈川上肢の外科研究会 (横浜)	2011. 10. 22

演 題	演 者	学 会	発表年月
	森 末 光 小 柳 貴裕 堀 内 行雄		
治療に難渋した肘関節脱臼に伴う上腕骨内側上顆骨折の1例	金子 陽介 越 智 健介 森 田 晃造 中 道 憲明 森重 雄太郎 大久保 匡 谷 川 英徳 金 子 康仁 原 藤 健吾 森 末 光 小 柳 貴裕 堀 内 行雄	第17回神奈川上肢の外科研究会 (横浜)	2011. 10. 22
関節リウマチ肘におけるnon-linked型K-NOW人工肘関節の使用経験	越 智 健介 堀 内 行雄 川 島 秀一 森 田 晃造 河 野 友祐 丹 治 敦 関 敦 仁 高 山 真一郎 池 上 博泰	第24回日本肘関節学会 (長岡)	2012. 2. 18
特発性前骨間神経麻痺の病態と治療—文献reviewと前向き多施設臨床研究の試み—	前・後骨間神経麻痺前向き多施設共同研究グループ (事務: 越智健介)	第24回日本肘関節学会 (長岡)	2012. 2. 18
コンパートメントを越えて増大した前腕巨大脂肪腫の3例	河 野 友祐 吉 川 泰弘 松 本 浩明 山 下 裕 野 村 栄貴 越 智 健介 堀 内 行雄	第26回東日本手外科研究会 (盛岡)	2012. 3. 3
小児期上腕骨顆上骨折に合併した正中・尺骨神経麻痺が改善を認めなかった1例	河 野 友祐 堀 内 行雄 小 柳 貴裕 中 道 憲明 越 智 健介 谷 川 英徳 大久保 匡 金 子 陽介 森重 雄太郎	第52回関東整形災害外科学会 (横浜)	2012. 3. 23

9 マスコミ

演 題	演 者	放送局・新聞社	年月日
けんしょう炎	森田 晃造	TBSラジオ「明日も元気」	2011.6.13-17

10 その他

氏 名	タイトル・テーマ等	関係事項	年月日
鈴木航太 春成 学 石垣孝司 権守 智 近藤英樹 進藤 健 竹村成秀 齋藤 豊 大城健一 郷内志朗 高橋俊介 伊藤壮一 塚田実郎 田熊清継	腰部・臀部の動脈損傷にIVRを施行した2例	第18回慶応外傷症例検討会プログラム	2011.11
石垣孝司 近藤英樹 田熊清継	安定型骨盤骨折と診断された骨盤骨折の1例	第19回慶応外傷症例検討会プログラム	2012.3

12 院内講演会

回	実施日	講 師	講 演 内 容
1	2012.6.6	津村 和大 (臨床研究支援室)	臨床研究 最近のトピックス ー公的資金を獲得するためにー 平成24年度第1回川崎市立川崎病院臨床研究支援室主催講演会
2	2012.7.28	津村 和大	変わりゆく糖尿病治療 平成24年度第1回川崎市立川崎病院糖尿病市民公開講座
3	2012.8.10	津村 和大	臨床研究 最近のトピックス ー治験と医師主導型自主研究の比較からー 平成24年度第2回川崎市立川崎病院臨床研究支援室主催講演会
4	2012.11.5	殿岡 弘敏 満田 年宏	院内における細菌検出状況と感受性 院内感染アウトブレイク最近の傾向と対策
5	2013.1.31	坂本 光男 駒場 瑠美子 小林 岳	劇症型溶連菌感染症/人喰いバクテリア 感染を蔓延させないために 抗菌薬にTDMは必要か?
6	2012.6.18	内部講師 亀山 亜希夫	嚥下食体験
7	2012.6.18,22	池田 智宏、山本 義明 (川崎区保健福祉センター)	食中毒予防研修会
8	2012.7.2	内部講師 金澤 美穂	褥瘡の栄養管理
9	2012.7.26	内部講師 清水谷 弘美	医療スタッフのための特別食勉強会
10	2012.8.13	内部講師 亀山 亜希夫	なごみ食について

年報編集委員会

委員長	事務局長	高井 敏雄	委員	薬剤部	坂井 義則
副委員長	看護部	岡本 朋江	〃	食養科	樋口 直美
委員	〃	原田 直子	〃	庶務課	高橋 智常
〃	〃	菅 智子	〃	〃	鈴木 和文
〃	リウマチ膠原病・痛風センター	楠 芳恵	〃	〃	水嶋 祐二
〃	産科・婦人科	金 善恵	〃	医事課	竹田 和也
〃	教育指導部	玉井 博修	〃	〃	奥 知子
〃	放射線診断科	狩野 真之介	書記	庶務課	内田 政人
〃	検査科	工藤 美樹			

編集後記

かわさき市民アンケートで「これからも住んでいたい。」と回答した人が69.6%でした。約10年前から10%以上増えています。その理由のなかで生活環境の満足度の項目で「病院や医院までの距離」が三番目に入っておりました。生活の利便性が定住意向を高めているのではないのでしょうか。

当院は地域の医療機関として、引き続き「医療の質」でも評価してもらえるように努力してまいりたいと思います。この年報は病院運営と活動の記録を取りまとめたものであります。当院の評価の一指標となれば幸いです。また今後の業務改善、改革のための参考資料となりますことを期待しております。

編集にあたり、忙しい日常の診療の合間を縫って原稿作成をお引き受けいただきました各診療科及び各部門の責任者と執筆者の皆様に深く感謝申し上げます。

年報編集委員長 高井 敏雄

川崎市立川崎病院年報
第48号（平成24年度版）
平成25年11月29日発行
編集・発行 川崎市立川崎病院
〒210-0013 川崎市川崎区新川通12番1号
電話 044 (233) 5521(代)
FAX 044 (245) 9600
川崎病院ホームページ
(<http://www.city.kawasaki.jp/83byoin/kawasaki/index.html>)
印刷所 株式会社東邦プラン